

公立図書館・文書館・博物館 協同と協力の動向

Public Libraries, Archives and Museums
Trends in Collaboration and Cooperation

By Alexandra Yarrow, Barbara Clubb
and Jennifer Lynn Draper

著者 アレクサンドラ・ヤロウ、バーバラ・クラブ
ジェニファー リン・ドレイパー

訳者 垣口弥生子・川崎良孝

KSPシリーズ 7



発行 京都大学図書館情報学研究会

公立図書館・文書館・博物館 協同と協力の動向

著者

アレクサンドラ・ヤロウ、バーバラ・クラブ
ジェニファー・リン・ドレイパー
(公立図書館分科会常任委員会)

訳者

垣口弥生子・川崎良孝

Translated from the English language edition of
Public Libraries, Archives and Museums: Trends in Collaboration and Cooperation

(IFLA Professional Reports: 108),

By Alexandra Yarrow, Barbara Clubb and Jennifer-Lynn Draper,
Originally published by IFLA Headquarters, The Hague, Netherlands.

Copyright © 2008 by the authors.

Translated into and published in the Japanese language by arrangement
With International Federation of Library Associations and Institutions.

All rights reserved.

凡例

- 1 本書は Alexandra Yarrow, Barbara Clubb and Jennifer-Lynn Draper, *Public Libraries, Archives and Museums: Trends in Collaboration and Cooperation*, IFLA Professional Reports, No. 108, 2008 の全訳である。
- 2 本文中の引用符 “ ” は「 」、() は () で示した。
- 3 書名や雑誌名、さらに新聞名は「 』で、図書や雑誌に収録された個々の論文や作品は「 』で表記した。また固有名詞のうち、普通名詞とまぎらわしいものに限って「 』に入れた。
- 4 必要と思われる場合は () 内に原語を補記した。
- 5 訳者の敷衍や補足は [] 内に補記した。

目次

概要	3
序：協同と協力の必要性	4
プロジェクトの提案	5
調査方法	6
文献レビュー	8
第1章 プログラムの協同作成	
1節 コミュニティと文化遺産に関するプログラム	11
2節 博物館／美術館の無料入館証に関するプログラム	15
第2章 電子資源での協同	
1節 世界規模のイニシアティブ	19
2節 大陸規模のイニシアティブ	20
3節 全国規模のイニシアティブ	21
4節 地域・地方規模のイニシアティブ	24
第3章 共同利用施設と統合施設	
1節 最小限の統合	31
2節 選択的な統合	34
3節 完全な統合	35
第4章 協同への手引き	
1節 最良の実践	39
2節 成功する協同：開始から終了まで	40
3節 協同による電子資源の創造	42

3.1 特別な検討事項	42
3.2 協同の利益とリスク	44
3.3 リスク管理の戦略	45
結論.....	47
執筆者紹介.....	48
協力者への謝辞.....	49
参考資料.....	51
訳者あとがき.....	65
京都大学図書館情報学研究会と刊行物.....	66

概要

本報告『公立図書館・文書館・博物館：協同と協力の動向』は、公立図書館、文書館、博物館について、最近の協同と協力の動向を調査している。本報告で取り上げた多くの事例をみると、各機関の使命は一致しているか類似している。したがって協同事業に際して理想的な提携相手になれる。『公立図書館・文書館・博物館』は、展示、コミュニティ・プログラム、デジタル資源、共同利用施設など、各種の協同プロジェクトを調査している。そうした事例は、カナダ、アメリカ、イギリスをはじめ、ロシア、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、ドイツ、イタリア、スペイン、南アフリカ、オーストラリア、ニュージーランドから寄せられている。本報告は協同への手引きで閉じられている。そこには、この分野での最良の実践例、成功する協同のための手引き、協同の利益とリスクに関する議論、それに参考資料を掲げておいた。

アレクサンドラ・ヤロウ

バーバラ・クラブ

ジェニファー・リン・ドレイパー

2008年6月

序：協同と協力の必要性

これまで図書館をはじめとする文化施設は、一般的に利用者の来館を当然のことと考えてきた。しかし現在のほとんどの施設は、アウトリーチなどの方法がコミュニティや利用者の日常生活にいつそう適切であるとみなしている。今や焦点は、現実であれバーチャルであれ、施設のコレクションとともに、施設そのものの体験におかれている。

しばしば図書館、文書館、博物館は、同じコミュニティによく似た方法でサービスを行っている。その点で、協同と協力のための自然な提携者になる場合が多い。図書館、文書館、博物館は、いずれも生涯学習の機会の支援と向上、コミュニティの文化遺産の保存、情報へのアクセスの保護と提供を行っている。アメリカの「博物館・図書館サービス振興機関」(IMLS)は、図書館、博物館、学校の提携に関する報告「見通しを計画し、新しい道を描く：博物館、図書館、およびK-12の学習」を作成した。同報告の調査者は、「博物館と図書館は協同によって、……社会的地位を高めたり、サービスやプログラムを向上したりできる。また特に恵まれない学習者をはじめとして、社会を横断するいつそう大きくて多様な学習者のニーズに、より巧みに合わせることもできる」(9)と観察している。図書館、文書館、博物館は多様な提携を一助として、これらのゴールを達成できるし、協力して力のおよぶ限りのサービスをコミュニティに提供できる。

プロジェクトの提案

IFLA 公立図書館分科会常任委員会が本プロジェクトの資金を出している。本プロジェクトの目標は、とりわけ地方自治体のレベルを中心に公立図書館、博物館、文書館を取り上げて、いっそう大きな協力や協同に向けての動きを記録することにある。公立図書館、博物館、文書館は人びとの生活のまさに中心にあり、楽しみや感動、文化的価値、学習、経済的繁栄、社会的公正に寄与する。いずれの施設も、文化、社会、教育、経済での福祉を向上させ持続させるという役割を有している。本研究は、公立図書館、博物館、文書館の協同の仕方を識別することになる。また図書館、博物館、文書館は協同によって、どのように以下のことができるのか示すことになる。すなわち、生涯学習やコミュニティ発展への支援、多種多様な文化のおよび経済的なイニシアティブの提携者になること、情報へのユニバーサル・アクセスの提供、文化遺産資料の保存、新しい利用者の獲得、中核となるサービスの向上である。さらに本プロジェクトは最良の実践を選び出すことで、世界中の公立図書館に事例を提供できるだろう。それに協同事業を検討中の施設に手引きを供することになる。

プロジェクトの提案の作成者：

バーバラ・クラブ

IFLA 公立図書館分科会常任委員会元委員長

IFLA 都市圏図書館分科会常任委員会委員

調査方法

本プロジェクトは、図書館、博物館、文書館での提携や協同という世界で、現実に行っている事例の周囲を一瞥することから始まった。提携や協同の動向、それに最良の実践や障害を明らかにするには、文献調査よりも広範囲にわたる調査方法が必要であった。そこで質的なケーススタディという方法を用いることに決定した。

IFLAからの資金が認められるとすぐにプロジェクトに着手した。本プロジェクトは2004年6月に開始し、2005年2月まで続いた。第2次草案の完成は2005年晩春であった。バーバラ・クラブの指導のもと、ジェニファー・リン・ドレイパーが第1次草案を作成した。ドレイパーはIFLA公立図書館分科会常任委員会と定期的に連絡を取り、調査結果についての報告書を提出した。と同時に、データベース(CHIN, Library Literature, LISAなど)上の新しい論文や記事を取り出して参考資料を最新状態に保ち、月毎にオンライン文献検索を行ったのである。アレクサンドラ・ヤロウが2008年6月に最終報告書を編集し完成させたが、そこには最新の事情に関する節が含まれていた。本報告書はアメリカ現代言語協会の文献表記スタイルを採用している。また本報告書で触れたすべてのウェブサイトは、「参考資料」に掲げておいた。

関係分野の指導者との幾多のインタビューや電子メールが、データベースやオンラインでの検索を補った。インタビューは、世界中の独創的なプログラムに光彩を当てるために、そして未だ文書化されていない提携情報を報告書に加えるために行われた。インタビューと電子メールで、図書館、文書館、博物館の提携にかけがえのない洞察を提供してくださったのは、次の人びとである。

David Bradbury: Libraries, Archives and Guildhall Art Gallery, London

Roy Clare: Museums, Libraries and Archives Council (MLA), London

Elaine Condos: Ottawa Public Library

Ingrid Parent: Library and Archives Canada (Chair of the General Research Libraries division of IFLA)

Eddie Paul: Jewish Public Library in Montreal

Dr. Victor Rabinovitch: Canadian Museum of Civilization

Hélène Roussel: Bibliothèque et Archives nationales du Québec

David Ross: Museums, Libraries and Archives Council (MLA), London

Dina Sherman: Brooklyn Children's Museum

Dr. Ian Wilson: Librarian and Archivist of Canada

Shawn Whatley: Goethe-Institut, Toronto

文献レビュー

成功する提携関係を創りあげるに際して、しばしば理論と実践に乖離が生じる。図書館、博物館、文書館に関する専門文献をみると、協同プロジェクト、とりわけ最良の実践に関する文献はほとんどない。

目を通した大多数の文献は特定のプロジェクトを取り上げて、組織間の特定の提携関係を概説している。そこでは3種類の一般的な提携の型がみられる。すなわち、プログラム作成での協同に集中する提携、デジタル資源を創造するための提携、それに施設の共同利用である。以下に示すのは、これら3種の提携に関する重要な文献である。

ベツィ・ディアマン-コーエンとダイナ・シャーマン (Betsy Diamant-Cohen and Dina Sherman) は、2003年の『パブリック・ライブラリーズ』に論文「手を取り合って：博物館と図書館の協力」を発表した。またハナ・ギブソン (Hannah Gibson) は、2007年の『リブリ』に論文「図書館と博物館の結びつき：イングランドとアメリカでの博物館と図書館の協同に関する研究」を発表した。いずれも中核となる情報資源で、アメリカとイングランドでの多種多様な種類の提携を紹介している。ディアマン-コーエンとシャーマンの論文はアメリカを対象に、図書館と博物館の提携を2つ取り出し、綿密に分析している。そして他の多くの提携については簡単にリストにした。ハナ・ギブソンの論文は、ディアマン-コーエンとシャーマンの研究の上に、さらに新しい事例を加えるとともに、イギリスでの提携も含めて展望を広げている。

共同利用の図書館については、カレン・ドルンザイフ (Karen Dornseif) が2001年の論文「共同利用の図書館：自律性と協力の均衡」(107-108) で、公立図書館と大学図書館の協同を扱った。そこでは3種類の共同利用施設を確認している。ドルンザイフは統合のレベルによって区別し、最小限の統合 (各自のサービスを維持した共同利用施設)、選択的な統合 (特定のプロジェクトまたは部門の共有)、そして完全な統合 (両施設は一つの使命を共有する) とまとめている。この定義は、さまざまな図書館、文書館、博物館の提携に適用できるし、本報告書でも採用している。ディレブコとゴットリーブ (Dilevko and Gottlieb) は2003年の論文「看過された思想の復活：図書館と博物館の混合を再び導入する」で、共

同利用施設を概説した。そこでは図書館のコレクションに実物資料 (realia) を含めることが、単一の文化施設の創造に向けた最初の一歩になると指摘している。

ヨーロッパにおけるデジタル面での提携事例を確認する際には、「高度ネットワークに結集する公立図書館」(PULMAN, Public Libraries Mobilising Advanced Networks)のウェブサイト「卓越したネットワーク」(Network of Excellence)が最も役立った。クリストファー・ウォーカー (Christopher Walker) とカルロス・A. マンファレス (Carlos A. Manjarrez) の2004年の『自由な自主選択学習のための提携：公立図書館、博物館、公共放送の協力』は、アーバン・インスティテュート (Urban Institute [非営利の経済政策、社会政策の研究機関])、と都市図書館会議 (Urban Libraries Council) によって刊行された。同書はアメリカでの重要な提携を概括するとともに、提携に際しての強み (assets)、弱み (liabilities)、リスクを理解するのも非常に役立つ。

ノースカロライナ大学チャペルヒル校の図書館情報学大学院准教授デイビッド・カー (David Carr) は、2000年の論文「可能性の文脈：扇動的な文化施設としての図書館と博物館」で、協同プロジェクトについての哲学を考察した。同論文は教育的な見地に立脚し、図書館と博物館は「扇動的な文化施設であり、……人間の能力を煽り立てて可能性を想像させる」(117) と記している。

最良の協同実践に関しては、オ'Connorとアレン (O'Connor and Allen) の著作『コミュニティを教育面で提携させる方法：教育者と雇用者のためのカナダの資源案内』が参考になる。教育者と雇用者が提携の樹立を助けるために、オ'Connorとアレンは同書第5章で自分たちが作成した資源案内を提供している。

協同にまつわる課題を指摘する研究者もいる。トム・ストーリー (Tom Storey) は「図書館：他の文化施設との役割と関係」で、アメリカの「博物館・図書館サービス振興機関」の長ボブ・マーティン (Bob Martin) にインタビューを行った。そのときマーティンは、「同意もせず大人が行う不自然な行為と、協同を定義する」(14) 同僚の言を引き合いに出した。

図書館、文書館、博物館の協同プロジェクトに関する研究は少ないかもしれないが、入手できる情報は、利用者サービスへの豊富にして多様な、そして革新的な対応を提示している。さらに、3つの文化施設が協同と協力によって、どれほど成果とサービスを向上させることができるかを明らかにしている。

第 1 章

プログラムの協同作成

1 節 コミュニティと文化遺産に関するプログラム

提携を生む一つの方法は、共通の目標（教育的、文化遺産的な性格のものが多い）での協同やコミュニティのプログラムでの協同にある。最近のある研究は、「図書館と博物館は最も信頼されている情報源である」と結論している。この研究は、図書館、博物館、それに文書館は、コミュニティの教育に価値ある貢献ができるという考えを支持している（Griffiths and King 3）。さらに、「博物館と公立図書館は多種多様な情報ニーズを支える上で、重要にして相補的な役割を果たしている」（Griffiths and King 24）。したがって、図書館と博物館はプログラム作成のための自然な提携者である。合同プログラムは図書館利用者に豊かな経験をもたらしており、いくつかの事例を下記に示している。

○ ジョージナ公立図書館（カナダ、オンタリオ州ジョージナ）

ニネットィ・ギョロディー（Ninette Gyorody）が 2004 年の「博物館での学習に関するコロキウム」で発表したように、コミュニティの発展を支援するために、ジョージナ開拓村（Georgina Pioneer Village [昔の開拓時代の村を再現したもので入場料が必要]）は地元の図書館（作品展示にいつそう広いスペースがある）に展示品を並べ、地元のサットン祭り [150 年の歴史を有する地元の祭りで、馬の品評会なども行われる] に展示ブースを出している。図書館も地元の文書館や博物館と協力して、一次資料をデジタル化した。また博物館や文書館と協同して、カナダ国際博覧会（Canadian National Exhibition）[2008 年 8 月 15 日から 9 月 1 日にトロントで開催] で、展示ブース「文化遺産の種まき」（Sowing the Seeds of Heritage）を開設した。さらに博物館は、ジョージナ学習センター、ジョージナ開拓村、ジョージナ図書館友の会と協同して、ピーター・グゾウスキーお話し祭（Peter Gzowski Festival of Stories）[読書やストーリーテリングを促進するための祭りで、2008 年 8 月 17 日に行われた] を開催し、その会場になった（“About the Festival”）。

○ ゲーテ・インスティテュート (カナダ、オンタリオ州トロント)

ドイツ連邦共和国の文化機関ゲーテ・インスティテュートは、海外でドイツ語の知識を普及させ、ドイツの文化、社会、政治についての情報を提供し、文化での国際協力を育成している。2004年以来、トロントのゲーテ・インスティテュートは、カナダとドイツの間の広範な図書館プロジェクトに力を入れてきた。ショーン・ホワットリー (Shawn Whatley) が記すように、ドイツからの専門家がカナダの会議で発表したり、カナダ図書館・文書館 (Library and Archives Canada) とゲッティンゲン大学のデジタル専門家の会議が開かれたり、また最近ではドイツの図書館員グループが、カナダへの研修旅行に参加した。この旅行はトロントのゲーテ・インスティテュートとトロント公立図書館が組織し、多文化住民へのサービスを主題としていた。同インスティテュートは、来年以降に「じっとしていない文化」(cultures on the move) を探究する予定になっている。最後に、同館は美術コレクションへの関心も追求しており、北アメリカの主要な美術館の図書館長を対象に、6日間のドイツ美術図書館研修旅行を組織中である。

○ アナーバー公立図書館 (アメリカ、ミシガン州アナーバー)

エイミー・カントゥとベス・アンダーセン (Amy Cantu and Beth Andersen) は、2003年の『パブリック・ライブラリーズ』に論文「環境保護は難しいが、やってみるとおもしろい：アナーバー公立図書館での持続的発展プログラム」を発表し、アナーバー公立図書館での環境保護プログラムを報告した。同館はコミュニティのグループや機関と協力して、コミュニティが表明する教育的ニーズを充足させた。図書館は、ニコルス森林公園 (ミシガン大学所有)、アナーバー・リサイクル・センター、ミシガン大学環境維持システム研究センター、アナーバー市エネルギー局、レズリー科学センターと提携して、2002年5月に講演会と行事のシリーズ「アナーバーの環境保護：地球規模で考え、地域で行動しよう」を開催した。2001年、アナーバー公立図書館はミシガン大学美術館と協同して、「二重らせん構造」(Double Helix2) を提供した。「家族向け行事を主催する [ミシガン大学自然史] 博物館」によると、このコミュニティの行事の副題は「アートと遺伝子革命の探求」で、参加者は本物のDNAに触れたり、ミシガン大学の専門研究者と会うことができた。この行事にはお話しの時間、それに図書館コンテストに参加する機会も設けられていた。

○ バーピー博物館 (アメリカ、イリノイ州ロックフォード)

バーピー博物館の職員が、2001年にバッドランズ (Badlands) の発掘現場で、ティラノザウルスの骨格の主要な部分と、大部分の頭蓋骨を発見した。このティラノザウルスは「ジェーン」と命名され、博物館はメディアから前例のない注目を浴びたばかりか、コミュニティを科学研究プロジェクトに引き入れるという独創的な機会を得た。博物館長ルー・クランプトン (Lew Crampton) はバーピー博物館のウェブページ「バーピー博物館ジ

ェーン協同プロジェクト」(Burpee Museum Jane Collaborative Project)で、「ジェーンの身元をめぐって生じる科学論争を目撃するために、住民を図書館に招待しなかった」と述べた。このプロジェクトで、博物館は科学リテラシーに寄与することを望んだ。そしてロックフォード公立図書館、北部イリノイ図書館システム、アローヘッド図書館システムと提携して、「ジェーン協同」(Jane Collaborative)を組織した。ウェブページ「バーピー博物館ジェーン協同プロジェクト」によれば、このプロジェクトは「博物館・図書館サービス振興機関」(IMLS)の全国リーダーシップ補助金(National Leadership Grants)から資金を得た。この資金は、図書館職員の研修、図書館の「ジェーン・コーナー」に並べる恐竜資料の提供、それに家族向けのプログラムに用いられた。

○ デンバー公立図書館(アメリカ、コロラド州デンバー)

デンバー公立図書館、デンバー美術館、コロラド州文書館の協同により、西部の歴史をテーマに、3つの館の所蔵資料を用いて複数の場所での展示が実現した(Walker and Manjarrez 37)。

○ ヒューストン公立図書館(アメリカ、テキサス州ヒューストン)

ヒューストン公立図書館は博物館と多くの提携関係を築いている。一つはヒューストン自然科学博物館との提携で、博物館は図書館でのお話しの時間をはじめとする活動を支援している。それは「発見教材キット」(Discovery Kit)を通じて、教育的資料や実物資料を提供することによる(Walker and Manjarrez 35)。またヒューストン美術館とも協同して、図書館分館で展示を行っている。そしてヒューストン公立図書館は、お話しの時間、講演会、ワークショップを含めて、展示関連のプログラムを主催している(Walker and Manjarrez 37)。

○ キング・カウンティ図書館システム(アメリカ、ワシントン州キング・カウンティ)

2008年3月の『ライブラリー・ジャーナル』のコラム「フロントデスク」(Frontdesk)で紹介されたように、キング・カウンティ図書館システムはワシントン大学のパーク(Burke)自然史・文化博物館と協同している。葉を作成して、博物館の展示を広告したり、図書館にもっと情報を求めるように住民に呼びかけたりしている。

○ マディソン公立図書館(アメリカ、ウィスコンシン州マディソン)

マディソン公立図書館、デーモン・カウンティ図書館サービス、マディソン子ども博物館の協同プロジェクトは、「図書館-博物館の協同を行う図書館を対象とする全国リーダーシップ補助金」(National Leadership Grants)から資金を得た。3つの参加館は地元のコミュニティ団体と提携して、プログラム「発見しよう」(Discovery to Go)を実施している。こ

のプログラムは移動図書館を利用して、教育プログラムや図書館資料、それに博物館の展示品を低収入の家族に持ち込んでいる (Walker and Manjarrez 37)。

○ 「博物館とコミュニティのイニシアティブ」(アメリカ、ワシントン・D.C.)

このプロジェクトはアメリカ博物館協会 (AAM) が1998年に開始し、すでに完了している。同プロジェクトの焦点は、博物館と変化するコミュニティとのつながりを育成することにあった。そして『博物館とコミュニティのツールキット』を作成し、2003年に報道発表「AAM報道発表：アメリカ博物館協会は『博物館とコミュニティのツールキット』を作成」で披露した。またこのプロジェクトは、博物館とコミュニティとの協同を促進するために、専門的教育セミナーを開催したり、他のツール類を作成したりした。

○ ナッシュビル公立図書館 (アメリカ、テネシー州ナッシュビル)

2005年にフリスト視覚芸術センター (Frist Center for the Visual Arts) はナッシュビル公立図書館と協同して、「プロジェクト・アクセス」を実施した。これは「博物館・図書館サービス振興機関」(IMLS) の資金を得ているプログラムで、「成人の英語学習者 (ELL) の語学力、視覚芸術、コンピューター・リテラシーの向上を支援」する (Henderson and Adler 1)。このプロジェクトはフリスト・センターか図書館で開催される8つのセッションから成り、「両施設の資源とプログラムにたいする参加者の知識を深めること、基礎的なコンピューター・リテラシーの演習を行うこと、美術への理解や全般的認識を高めること」に焦点をあてていた (Henderson and Adler 1)。プログラムの終了時には、参加者の59パーセントがフリスト・センターについて、62パーセントが図書館について十分な知識を有していた。また98パーセントが、人生における美術と美術館、それに図書館の必要性を大いに理解すると表明した (Henderson and Adler 9)。

○ ブックス・コネクト1・2 (イギリス、イースト・ミッドランズ)

リーディング・エージェンシー (Reading Agency [読書の促進団体])、イースト・ミッドランズ (East Midlands) の9つの公立図書館、イースト・ミッドランズ博物館サービス、イースト・ミッドランズ地域文書館サービス、それに「イースト・ミッドランズ博物館・図書館・文書館協議会」(EMMLAC) の共同事業として、2つのプロジェクト「ブックス・コネクト」(Books Connect) が実施された (2001-2002と2003-2004)。同プロジェクトの第2期に文書館が参加した。「ブックス・コネクト」は、「読書によって動機づけられた公立図書館、芸術家、博物館の創造的な提携」に焦点を合わせている。「ブックス・コネクト」のプログラムは、インクルージョン、コミュニティ、結合力、文化的多様性といったテーマを探究する。非常に多くの専門的資源がプロジェクトの期間中に開発された。例えば、評価ツールキット、作成されたモデルとなるプロジェクトのデータベース、それにオンライ

ンのツールキット『提携を創造する』である。英国図書館・情報専門家協会 (CILIP) の雑誌『ライブラリー+インフォメーション・アップデート』の2005年5月号に、このプロジェクトの評価プロセスに関する論文「芸術での提携が機能する」が掲載されている。ここでは、どのようにして各プロジェクトに図書を含めたのか、どのようにして地元図書館員の「地元コミュニティにたいする知識と感受性」を活用したのか、さらにどのようにして「関係するグループの文化と相違する」人びとに手を伸ばしたのかといった点を強調している(9)。

○ ワーウィックシャー移動図書館サービス (イギリス、ワーウィックシャー)

『ライブラリー+インフォメーション・アップデート』の2007年10月号の論文「文化財遺物と工芸品が移動図書館に参加」によれば、ワーウィックシャー (Warwickshire) 移動図書館サービスは大英博物館の文化財遺物計画 (Portable Antiquities Scheme) と組んで、博物館の人工遺物を移動図書館利用者に展示した。その目的は地元での考古学を促進し、図書館利用者に地元の博物館や文書館のサービスを紹介することであり、大成功をおさめた。成功の理由の一端は、農村地域の一般住民を対象にし、新しい市民を博物館や文書館の資料に引き込むことで、社会的障壁を壊す一助になったからであろう(11)。移動図書館で展示された人工遺物を見るのが楽しいと述べる人もいた。そうした人は、「博物館まで出かけるには内気すぎた」のである(11)。例えば文化財遺物計画のウェブサイト、ワーウィックシャー移動図書館サービスのデータベース、それに「過去の探検家」(Past Explorers)のマイクロ教育のサイト間を含めるといった提携の拡大を検討中である。

2 節 博物館／美術館の無料入館証に関するプログラム

北アメリカの多くの図書館が、博物館や美術館といった文化施設や文化遺産施設と組んで、そうした施設への無料入館証を提供している。公立図書館で博物館への無料入館証プログラムを実施した最も早い例は、シカゴ公立図書館である。同館はクラフト財団と提携して、「クラフト財団提供の博物館児童無料入館証」を設け、図書館利用者はシカゴにある13の美術館を利用できるようになった。ウェブページ「クラフト財団提供の博物館児童無料入館証」(Kraft Great Kids Museum Passes)によると、この無料入館証は図書館で借りて返却し、返却が遅れると延滞金が科され、更新や予約はできない。アメリカで地元の博物館と提携して無料入館証を提供している公立図書館には以下がある。マサチューセッツ州のボストン公立図書館、ペンシルバニア州のフィラデルフィア公立図書館、ミシガン州のメトロ・デトロイト公立図書館、ニューハンプシャー州のダーラム (Durham) 公立図書館、コネチカット州のフェアフィールド (Fairfield) 公立図書館、それにマサチューセッツ州のSAILS図書館ネットワークなど。

しかし将来、多くのコミュニティが博物館や美術館を入場無料にするようになると、図

書館と博物館は他の種類の協同（本報告書の各所で出てくるような協同）に向かうかもしれない。例えば2007年の『トロント・スター』に掲載されたマーティン・ニールマン（Martin Knelman）の記事によれば、メリーランド州ボルティモアはボルティモア美術館とウォルターズ美術館を無料にしている（2006年10月現在）。さらにこの記事によると、イギリスの前首相トニー・ブレアは、イギリスのすべての博物館の入館を無料にし、そのため入館者は75パーセント増加したという。

○ キングストン・フロンテナック公立図書館（カナダ、オンタリオ州キングストン）

キングストン・フロンテナック（Kingston Frontenac）公立図書館はプログラム「図書館で過去を借り出そう」（Check Out Past @ your Library）で、博物館の無料入館証を提供している。この入館証によって、地元のさまざまな博物館、芸術センター、ウォーキング・ツアー、それに国際ホッケー有名人殿堂・博物館（International Hockey Hall of Fame and Museum）を利用できる。図書館のウェブページ「博物館無料入館証：図書館で過去を借り出そう」（Museum Passes: Check Out Past @ your Library）によると、この入館証は実物資料として目録化されており、図書館に返却し、予約もできる。

○ オタワ公立図書館（カナダ、オンタリオ州オタワ）

カナダ文明博物館、カナダ自然博物館、オタワ公立図書館の提携のおかげで、オタワ公立図書館の利用者は経験を借り出し、カナダ最大の博物館を「取り入れる」ことができる。利用者は自分の図書館カードを使って、どの分館でも特典カード（Privilege Card）を申し込める。この特典カードで、一家族（4人まで）が無料でカナダ文明博物館が供する興奮を発見——あるいは再発見——できる。なおカナダ文明博物館は、カナダ郵便博物館、カナダ子ども博物館、カナダ戦争博物館を含む。そして2004年にはカナダ自然博物館が参加した。それ以後、さらに2種類の無料入館証が加わった、一つはカナダ科学技術博物館、いま一つは10か所の小さな博物館の無料入館証である。これらの入館証は実物資料の扱いで、図書館コレクションとして目録化されており、1週間借り出せる。また予約も可能である。

○ ペンブローック公立図書館（カナダ、オンタリオ州ペンブローック）

オタワ公立図書館と同じようなプログラムが、オタワの近くのペンブローックにある。ペンブローック（Pembroke）公立図書館のウェブサイト「博物館無料入館証」（Museum Passes）によれば、図書館利用者は博物館無料入館証を借りて、カナダ科学技術博物館、カナダ文明博物館、カナダ戦争博物館（すべてオタワ）、それにオンタリオ州ディープリバーにあるカナダ時計博物館を利用できる。

○ トロント公立図書館 (カナダ、オンタリオ州トロント)

2007年6月にトロント公立図書館は、「サンライフ保険会社提供の博物館・美術館無料入館証」(Sun Life Financial Museum and Arts Pass)を発表したが、これは成人の図書館カード保持者に同館の24分館で博物館の無料入館証を貸出すというものである。貸出規則は無料入館証にも適用される。ただし期限切れの入館証を図書館に返却する必要はなく、延滞料もかからない。利用者はこの入館証で14の施設を利用できる。例えばオンタリオ美術館、パータ (Bata) 靴博物館、ガーディナー (Gardiner) 博物館 [セラミックス関係の博物館]、王立オンタリオ博物館、トロント市のさまざまな歴史博物館、それにオンタリオ科学センターである。オンタリオ公立図書館のウェブページ「サンライフ保険会社提供の博物館・美術館無料入館証」が記すように、このプログラムはサンライフ保険会社が資金援助を行っている。

○ パサデナ公立図書館 (アメリカ、カリフォルニア州パサデナ)

パサデナ公立図書館とハンチントン図書館・美術コレクション・植物園 (Huntington Library, the Art Collections and Botanical Gardens、サンマリノ近郊) の提携の一環として、無料入館証を図書館の貸出デスクで入手できる。一時入館証がその場で打ち出され、そこには有効期限が記入されている。なお無料入館証の予約はできない (“The Huntington Museum Pass Guidelines”)。

第 2 章

電子資源での協同

諸機関の協同における大きな動向の一つは、デジタル・コレクションの創造である。急速な技術革新によって、多くの機関（規模を問わず）がウェブ上で発信するようになり、資源の拡大、集合的知識の集積、共通の歴史の共有のために提携を求めている。

多くの国の図書館、博物館、文書館が、共通のデジタル化プログラムと共通のウェブポータルを探求している。クロスネット・システム社 (Crossnet Systems Limited) のダイアン・ホイッターカー (Diane Whittaker) は2003年の論文「博物館、文書館、図書館部門の相互運用性」で、「共通ポータルが、博物館、文書館、図書館部門のデータベースを横断的に探し求めるという問題への解答になろう」(44) と書いている。ホイッターカーの意見によると、これらのプロジェクトは、地理的に互いに近接した機関による地域的なものと、大規模機関による全国的なものになりがちである。デジタルでの協同の事例を以下に示す。

1 節 世界規模のイニシアティブ

○ 世界デジタル図書館 (The World Digital Library)

世界デジタル図書館は依然として計画段階であるが、エジプトのアレクサンドリア図書館、サウジアラビアのキング・アブドゥラ科学技術大学、アメリカ議会図書館、ブラジル国立図書館、エジプト国立図書館・文書館、ロシア国立図書館 (National Library of Russia)、ロシア国立図書館 (Russian State Library)、そしてユネスコが提携している。この提携が目指すのは、全世界の重要な一次文化資料を、無料かつオンラインで、さらに多言語で提供することにある。世界デジタル図書館の目標は、国家間および文化間の理解と認識の促進、教育者への資源の提供、インターネット上での非英語および非西欧的なコンテンツの拡大、学術研究への寄与にある。アメリカ議会図書館長ジェイムズ・H. ビリントン (James H. Billington) が2005年6月に世界デジタル図書館を提言した (“World Digital Library”)。

2 節 大陸規模のイニシアティブ

○ CALIMERA (ヨーロッパ)

「文化の活用：電子資源へのアクセスを仲介する地方の機関」(CALIMERA, Cultural Applications: Local Institutions Mediating Electronic Resource Access) は2005年に完了した。CALIMERAはヨーロッパの地方の文化機関をネットワークに結集し、ネットワークにはヨーロッパの42か国の政策立案者、実務家、供給者を含んでいた。サービスには、ウェブサイト(プログラムと専門文献の案内役を果たす)、政策策定ツールキット、最良の実践のための指針を含んでいた(“Calimera”)。

○ LIGHT (ヨーロッパ)

この最新プロジェクトは、ヨーロッパの5か国の協力事業で、すべてが欧州連合の国である。試験段階の5つのプロジェクトが動いている(その内の2つを以下に略述する)。LIGHTは地域の文化機関の提携がもたらす社会的、経済的な利益を実証すべく努力している。LIGHTのホームページ「LIGHT」によれば、INTERREG IIIC(ヨーロッパの地域が共通のゴールを達成するために、提携の形成を助けるグループで、欧州連合が資金を出している)が、このプロジェクトに資金を提供している。

LIGHTのウェブサイトで紹介されているが、LIGHTプロジェクトの2つの例を示しておく。

○ ボローニャ・オンライン (Chiedilo al Bibliotecario) (イタリア、ボローニャ)

LIGHTのウェブサイトにある「ボローニャの地域パイロット事業解説」(Bologna Description of Regional Pilot Application)によれば、サラボルサ(Sala Borsa)図書館は、ボローニャ市立大学文化協会(Assessorato alla Cultura e Rapporti con l'Università del Comune di Bologna)、アルキナジオ図書館(Biblioteca dell'Archiginnasio)、シネチカ・ボローニャ(Cineteca di Bologna)、アミカル・カブラル図書館(Biblioteca Amilcar Cabral)と地域提携を行い、ボローニャ市の歴史と地理に関する情報提供のために、デジタル・プログラムを開始した。このプログラムは以下を含んでいる。地域の文化、歴史、社会の記録である「ボローニャ・オンライン」(Bologna online)、1900年から現在までのボローニャ市をバーチャルに旅行する「ボローニャ歴史旅行」(Bologna Timeline)、市のあちこちにある歴史的な記念銘板から情報を集めた「装飾表札類文書館」(Cartigli Archive)である。ウェブページ「ボローニャの地域パイロット事業解説」によれば、このプロジェクトは、地域発展の主要な目標を「文化施設間の協力」と「地方のアイデンティティの強化」に設定している。

○ RoskildeLight (デンマーク、ロスキレ)

LIGHTのウェブサイトにある「RoskildeLIGHT解説」(RoskildeLIGHT Description)によれば、RoskildeLightは文化遺産情報の地域ポータルで、博物館、美術館、文化団体、

地域の自然地理学、地方の歴史的人物などの情報を扱っている。さらにこのポータルには歴史年表、およびロスキレ大聖堂（何人かの王家の墓がある）のセクションがある。RoskildeLightは、ロスキレ中央図書館、ロスキレ大聖堂、ロスキレ市の文書館と提携している。

3 節 全国規模のイニシアティブ

- 博物館・図書館サービス振興機関 (IMLS, Institute of Museum and Library Services : アメリカ、ワシントン・D.C.)

「博物館・図書館サービス振興機関」は図書館および博物館サービスのための国の機関で、本章で示すアメリカの多くのデジタル化プロジェクトに資金を提供している。例えば、「カリフォルニアの博物館とオンライン文書館」(MOAC, Museums and the Online Archive of California)、北西部太平洋岸アメリカ・インディアン (American Indians of the Pacific Northwest) のコレクションである。同振興機関は博物館と図書館に国の援助を提供している。また文化遺産、学習、文化事業、それに博物館員や図書館員の専門能力の高度化を支援するために、国レベルで活動している。さらに地方のプロジェクトに関して、州や地方の団体を調整している (“IMLS – About Us”)。

- ネットワーク上の文化遺産のための全国イニシアティブ (NINCH, National Initiative for a Networked Cultural Heritage : アメリカ)

アメリカの「ネットワーク上の文化遺産のための全国イニシアティブ」(NINCH) も、大規模なデジタル・ネットワーク形成／協同／デジタル文化遺産の取り組みである。NINCHのウェブサイトによれば、NINCHはアメリカの多くの団体が協調したもので、文化コミュニティ界からデジタル界に指導力を提供すること、および「文化コミュニティのさまざまな構成グループが協同して、効果的な文化遺産ネットワークを構築するための枠組みを構築すること」を目的とする (Green)。最近になってNINCHは2つの実用的プロジェクトを遂行している。一つは人文学のデジタル・プロジェクトによる国際的データベースの構築で、現行プロジェクトに関する最新データの提供、プログラム作成のための資源としての役割、「情報および政策作成のための資源としてのサービス」を担っている。もう一つは、NINCHの「最良の実践に関する専門委員会」が作成した文書「デジタルでの文化遺産資料の作成と管理運営に関するすぐれた実践ガイド」である (Green)。

- 博物館・図書館・文書館国家評議会 (MLA, Museums, Libraries and Archives Council : イギリス)

博物館・図書館・文書館国家評議会は、イングランドの博物館、図書館、文書館に責任を持つ政府機関である。同評議会は、2000年に博物館・美術館委員会 (MGC, Museums

and Galleries Commission) と図書館・情報委員会 (LIC, Library and Information Commission) の後身として設置され、このとき文書館も所掌に加わった。現在、同評議会は単一の全国的機関として再編途上にあり、国内の各地域に専門家チームを有する。同評議会は担当を拡大して、各地域の将来の発展に資することを目指している。それはあらゆる年齢層や経歴の人に、的を射た調査プログラムや革新的プログラムの提供、幅広い協同 (国内外を問わず教育や学習での提携)、さらにマッチングファンドや資金収集運動を含めて、自前の収入を得る努力を行うことによる。

同評議会のレファレンス・オンライン・プログラム担当のデイビッド・ポッツ (David Potts) は、評議会长ロイ・クレアー (Roy Clare) の言を引用している。

新MLAは、国の文化的生活に十全にして均衡ある貢献をすべく発達しつつある。MLAの意図は文化を新しいコミュニティの中心に据えることにある。……すべての子どもは多様な高質の文化を経験する権利を持つが、そのことを確実にするために学校を支援する。博物館、図書館、文書館という部門を文化的なオリンピック (Cultural Olympiad) に導く。博物館や図書館の向上のために「博物館、図書館の戦略」(Museums' and Libraries' Strategies) を進める。デジタル時代の情報共有のために新しい方法を探求する。国民の期待を上回るサービスを保証する。

ポッツによると、現在進行中の事業には次のものがある。Cornucopia：イギリスの博物館、美術館、文書館、図書館の6,000以上のコレクションのオンライン・データベース。A2A (Access to Archives)：1900年代から現在までのイギリスの文書資料の目録。People's Network：図書館サービスのためのオンライン・ポータルで、リアルタイムのレファレンス・サービス Enquire、統合検索ポータル Discover を含む。MICHAEL-UK：ヨーロッパのプログラム「ヨーロッパの文化遺産の多言語目録」(Multilingual Inventory of Cultural Heritage in Europe) の英国版で、イギリスの博物館、図書館、文書館のデジタル資料に容易にアクセスできる。博物館・図書館・文書館国家評議会は、2008年に『将来への枠組み：公立図書館のためのMLA活動計画：『2013年に向けて』』(Framework for the Future: MLA Action Plan for Public Libraries – “Towards 2013”) を発表した。『将来への枠組み』は向こう5年間の計画をまとめたもので、研究と実証、最良の実践、革新、デジタルへの変化という4つの課題に焦点を合わせている。またこの文書は、同評議회가公立図書館を代弁して主張を続けるとの意図を表明している (3)。

○ BAMPortal (ドイツ)

BAMPortalプロジェクトの目的は、図書館、文書館、博物館がデジタル資源を提供するについて、共通ポータルを考案することにある (Maier 44)。このプロジェクトのコーディネイターは、メタデータのフォーマット、検索エンジン、オンライン目録の調査や手引きの開発、それにデジタル化文書資料作成のための規格の開発を計画している。

○ NOKS (Nordjyllands kulturhistoriske Søgbase : デンマーク)

NOKS データベースは、デンマークの文書館、図書館、博物館のコレクションを検索する。ルース・ヘデガー (Ruth Hedegaard) は2003年のIFLAレポート「文書館、図書館、博物館の協力活動の利益」で、「NOKSプロジェクトには9つの機関が参加し、データベースは115,000のレコードから成る」と書いている(4)。こうしたレコードは、写真、図書、リーフレット、新聞切り抜き、文書、博物館の実物資料を含む。

○ ノルウェー・デジタル図書館イニシアティブ (NDLI, Norwegian Digital Library Initiative : ノルウェー)

ノルウェーの文書館・図書館・博物館局が主導する5年間のプロジェクトNDLIは、2003年に「国民にたいして情報源や知識源への容易なアクセスを提供する」ために設けられた(van Nuys 1)。最新のプロジェクトには以下がある。「デジタル図書館の構造プロジェクト」(Digital Library Framework Project) : デジタル図書館の技術的構造の設定を中心とする専門委員会。Trondheimsbilder.no : トロンヘイムの歴史的画像のデータベースで、トロンヘイム市文書館、トロンヘイム公立図書館、ノルウェー科学技術大学、スベレスボルグ・トロデラーク (Sverresborg Trøndelag) 博物館が協同している。Ask the Library (Biblioteksvar) : このサービスはオスロ公立図書館が運営するチャット、電子メール、SMS (ショート・メッセージ・サービス) によってアクセスできる。合同図書館カード (Joint Library Card, Felles lånekort) : このプロジェクトは図書館利用者の全国登録である。Tilgjengelig Project : デジタル学習資源とその学習環境への適用に関する協同研究である。NORA (Norwegian Open Research Archives) : 4つの大学図書館と5つのカレッジ図書館が開発した連合型の検索エンジンである。

○ ABM-centrum (スウェーデン)

王立図書館、スウェーデン国立図書館、スウェーデン国立博物館、国家文化財局、スウェーデン国立文書館、それに文化審議会の合同事業として、2004年に新しい事務局ABM-centrumが設置された。オンライン上の使命宣言「ABM-centrum: 使命宣言」(ABM-centrum: Mission Statement) によると、主要なゴールはデジタル・プロジェクトの発展に重点を置いて、文書館、図書館、博物館の相互理解と協同を促進することにある。

○ 国立デジタル図書館 (ロシア)

2002年に完成したオンラインPULMANの国別レポートに、記事「ロシア - PULMAN - 公立図書館の情報」(Russia - PULMAN - Information on Public Libraries) がある。この記事によると、ロシアには全国および地方のレベルで多様な協同がある。地方レベルの場合、図書館、博物館、文書館は、合同して教育プログラム、展示、出版を組織している。全国

レベルの場合、カレリア共和国の国立図書館が「カレリアの記憶」(Memory of Karelia)プロジェクトを実施している。このプロジェクトは、貴重なマニュスクリプトや文書をデジタル化し、電子図書館によって無料で一般に提供する試みである。なおこのプロジェクトは、地方研究の情報にアクセスできるように、地方の文化遺産機関と協力して開発された。

○ オーストラリア国立図書館 (オーストラリア、キャンベラ)

オーストラリア国立図書館は、デジタル画像の全国的なリポジトリの必要性を確認した。例えば、デジタル文書館 PictureAustralia を創り出した。そのウェブサイトは「文化機関の協同によるサイトで、デジタル画像コレクションの共有を目指している。……サービスの鍵は機関横断的な性格にあり、図書館、博物館、文書館、美術館、大学、歴史協会をはじめとする文化機関のコレクションを含む」(Campbell 1)。提携機関には、大学、自治体の文書館、公立図書館、オーストラリア戦争記念館、ジョン・カーティン首相図書館、博物館、美術館、州立図書館などがある。

4 節 地域・地方規模のイニシアティブ

○ ケベック国立図書館・文書館 (BAnQ, Bibliothèque et Archives nationales du Québec : カナダ、ケベック州モントリオール)

ケベック国立図書館・文書館 (BAnQ) は、従来は複数の別々の部局に分かれていた使命を、責任を持つ単一の行政機関にするという概念に依拠して創設された「独創的機関」である (Bibliothèque et Archives nationales du Québec 5)。「2002年にケベック国立図書館とケベック中央図書館の合併、そして2006年1月にはケベック国立文書館の合併という一連の過程を経て、現在のケベック国立図書館・文書館は、記録および文書の保存という責任の遂行と、広範な資源とサービスの住民への提供を兼務している」(Bibliothèque et Archives nationales du Québec 5)。ケベック国立図書館・文書館は、「国立図書館であり、広大な地域に奉仕するパブリック・ライブラリーであり、さらに文書センター」である。その責任は、「刊行、未刊行、それにメディアを問わず、ケベックの歴史文書の総体を保存し促進することにある。またユニバーサルな貸出コレクションを全住民に完全に無料で貸出すことにある」(Bibliothèque et Archives nationales du Québec 5)。

ケベック国立図書館・文書館のウェブサイトには使命宣言が掲げられているが、その優先事項の一つに、「ケベックはバーチャル図書館の発展に参加する」があり、バーチャル図書館の促進を確認している (“Mission”)。実際、同館のウェブページ「デジタル・コレクション」(Digital collection) では、「17世紀以降のケベックで作成されたすべての刊行物、および文書遺産資料、あるいは外国で作成されたケベック関係の文書遺産資料」をデジタル化する計画という。この使命宣言には、「印刷体や手書きの資料、写真、そ

して録音記録」も含まれる。現時点では800万点以上の資料がデジタル化され、オンラインで無料提供されている。例えば以下である。1920年代に発行された『ラビティビ』(L'Abitibi)や『アークス』(Axe)などの新聞がある。前者は北西部ケベックで発行された唯一のフランス語の新聞、後者はモントリオールの週刊英字新聞である。『ケベック文学作品辞典』(Dictionnaire des oeuvres littéraires du Québec, 第1巻はオンラインで利用できる)といった参考資料、それに幾多の公(civil and municipal)の記録、楽譜、雑誌、地図、絵はがき、写真、録音記録やビデオ記録を含んでいる。

○ キング・タウンシップ公立図書館(カナダ、オンタリオ州キング・シティ)

キング・タウンシップ公立図書館は、SirsiDynixヒュペリオン・デジタル・メディア文書館(SirsiDynix Hyperion Digital Media Archive)のプラットフォームへの共有アクセスを獲得して、「タイムレス・キング・オンライン」(Timeless King Online)を開始した。この件は、オンタリオ図書館協会機関誌『アクセス』の2006年夏期号の記事「キング・タウンシップのデジタル・データベース」で発表された。これはデジタル・コレクションで、キング・タウンシップ公立図書館とキング・タウンシップ文書館の資料にアクセスを供する。そこにはキング・タウンシップ法令集、行政文書、地方史資料(例えば校舎、町議会、教会、歴史的出来事の写真など)を含んでいる。将来の利用を目指していっそう多くの資料が目録化、デジタル化されるために、住民の保有する歴史的な資料や写真を図書館と共有することが歓迎されている。オンタリオ文化省がこのプロジェクトに補助金を出している。

○ ウェランド公立図書館(カナダ、オンタリオ州ウェランド)

ウェブページ「ウェランド公立図書館地方史サイト」(Welland Public Library Local History Site)によれば、ウェランド公立図書館のオンラインの運河史コレクションには、スキャンされた歴史的写真、図書館のレファレンス部門で利用できる新聞切り抜きの索引、それにウェランド歴史博物館の写真ファイルが含まれている。

○ 北西部太平洋岸のアメリカ・インディアン、ワシントン大学(アメリカ、ワシントン州シアトル)

「北西部太平洋岸のアメリカ・インディアン」コレクションは、ワシントン大学図書館のデジタル・コレクションの一部で、北西部の海岸および高原のインディアン文化に関する芸術、エッセイ、関連文書から成る。ウェブページ「北西部太平洋岸のアメリカ・インディアン」(American Indians of the Pacific Northwest)によれば、ワシントン大学図書館、歴史産業博物館、北西部芸術・文化博物館の資料を含んでいる。

○ ブルックリン探検 (Brooklyn Expedition : アメリカ、ニューヨーク州ブルックリン)
ブルックリン・パブリック・ライブラリー、ブルックリン子ども博物館、ブルックリン美術館の提携は1997年に始まり、2002年に終了した。ブルックリン探検という教育ウェブサイトは9歳から16歳までの生徒学生、および教師、親向けに考案された。このサイトは4つのテーマ領域で構成され、テーマは3つの協同機関の資料を使って展開されている。なお教師が授業計画を創りだした。ウェブページ「ブルックリン探検」(Brooklyn Expedition)によれば、ベル大西洋財団、全米芸術基金、「博物館・図書館サービス振興機関」(IMLS)、全米人文学基金、ネイサン・カミングズ (Nathan Cummings) 財団などが、このプロジェクトに資金を提供した。

○ コロラド・デジタル化 (Colorado Digitization : アメリカ、コロラド州デンバー)
この提携関係は、コロラド州文書館、デンバー公立図書館、コロラド州の地方史団体のコレクションが所蔵する写真、新聞、地図、その他のデジタル化された文書のウェブ文書館から成る (Walker and Manjarrez 40)。

○ 地球実地旅行 (Field Trip Earth : アメリカ、ノースカロライナ州アッシュボロ)
地球実地旅行は、ノースカロライナ動物公園、チャタム (Chatham)・カウンティの学校、アッシュボロ (Asheboro) 市立学校、VF コーポレーション [アパレル会社]、webslingerZ [ウェブを使ったビジネス戦略などの作成会社] の協同事業で、「博物館・図書館サービス振興機関」(IMLS) が資金を提供している。対話式のウェブサイト「地球実地旅行」は5歳から18歳までの生徒学生向けで、サイト訪問者に野生生物保護問題について「生きた」調査に参加するよう奨励する。「地球実地旅行」によれば、当のサイトを利用する生徒学生は、ビデオを視聴し、地図や写真を調べ、研究者と通信し、ワークショップに参加できる。

○ ブルックリンの心 (Heart of Brooklyn : アメリカ、ニューヨーク州ブルックリン)
2002年以来、ブルックリン子ども博物館とブルックリン・パブリック・ライブラリーは、ブルックリン博物館、ブルックリン植物園、プロスペクト公園、プロスペクト動物公園と組んで、「ブルックリンの心」を形成した。そのウェブページ「『ブルックリンの心』紹介」(Heart of Brooklyn: About Us)によると、この提携は「世界水準のコレクションと歴史的な宝物をいっそう目立たせ、アクセスを容易にすることで、観光や学習を促進する」。

○ カリフォルニア博物館・オンライン文書館 (MOAC, Museums and the Online Archive of California : アメリカ、カリフォルニア州オークランド)
このプロジェクトは13の施設が提携している。バークレー美術館、全米日系人博物館、

オークランド博物館、サンフランシスコ近代美術館、それにカリフォルニア大学ロサンゼルス校とパークレー校の博物館、図書館、美術館などである。このプロジェクトのウェブページ「MOAC」は、ゴールを次のように列記している。

……図書館と博物館のデジタル資源の相互運用性、統合性、円滑なアクセスを向上させる。……デジタル・コンテンツの共有を希望する博物館や図書館の参加コストを低減させる。……デジタル・コンテンツを幅広く共有するために、博物館や図書館の技量を高める。これは、実用的で費用効果の高い方法で技術的、記述的な標準を採用することによる。また、博物館や図書館が幅広い共有コンテンツの作成に際して、標準に合うデータを容易に作成できる実用的ソフトウェアを開発することによる。……文化遺産コミュニティと自由にツールを共有する。公開されているツールを共有するために、基礎構造とウェブサイト「コミュニティ・ツールボックス」を開発する。

○ 文書館・図書館・博物館資料の発行 (PALMM：アメリカ、フロリダ州)

協同プロジェクトPALMMは、多様な資源へのデジタル・アクセスを提供するために、文書館をフロリダの公立の大学と結びつけている。このプロジェクトに加わっているのはエバングレイズ・デジタル図書館だが、この図書館はフロリダ国際大学図書館、フロリダ図書館自動化センター、エバングレイズ (Everglades) 国立公園をはじめとして、幾多の機関や研究団体の協同事業である。ウェブページ「PALMM：文書館・図書館・博物館資料の発行」(PALMM: Publication of Archival Library & Museum Materials) によれば、この協同プロジェクトのゴールは、博物誌、教育資料、科学技術レポート、地図、写真に関する発行物へのアクセスを提供することにある。他のプロジェクトとしては、フロリダ文書館 (Archives Florida)、フロリダ文化遺産コレクション (Florida Heritage Collection)、それにマイル・マーカーズ (Mile Markers) がある。マイル・マーカーズは、フロリダ州キーズ地域 [フロリダ州南岸沖に連なる一連の小島や珊瑚礁群] の1880年代から現在までの発展をたどるコミュニティ写真アルバムである。

○ ロチェスター・イメージ (Rochester Images：アメリカ、ニューヨーク州ロチェスター)

モンロー・カウンティ公立図書館、ロチェスター歴史協会、ロチェスター科学・産業博物館、ロチェスター公立学校区が提携し、各機関のコレクションで、写真、新聞、その他のデジタル文書のウェブ文書館を作成している (Walker and Manjarrez 40)。

○ 南部オレゴン・デジタル文書館 (SODA：アメリカ、オレゴン州)

この電子図書館は、生態学的地域コレクション (Bioregion Collection) と先住民コレクシ

ョン (First Nations Tribal Collection) への開かれたアクセスを提供する。ウェブページ「南部オレゴン・デジタル文書館」(About the Southern Oregon Digital Archives) が記すように、南部オレゴン大学図書館がこの地方民族史資料を管理運営している。コレクションには、[先住民と政府などとの] 協定文書、ネイティブ言語辞書、この地域の原住民関係資料を含んでいる。

○ COLLAGE：ロンドン市電子図書館・美術館 (City of London Library & Art Gallery Electronic：イギリス、ロンドン)

文書館・ギルドホール (Guildhall) 美術館のデイビッド・ブラッドバリー (David Bradbury) によれば、ロンドン市作成のCOLLAGEは、ギルドホール美術館のコレクションの「画期的」なデータベースで、2万点以上の画像 (プリント、素描、地図、風刺画など) を収めている。

○ 音楽保存 (Music Preserved：イギリス、ロンドン)

「音楽保存」の運営は、ヨーク大学、トリニティ音楽カレッジ、バービカン図書館 [バービカン (Barbican) はヨーロッパでも最大級の芸術施設でロンドン交響楽団などが入っている]、ボースウィック文書館 (Borthwick Institute for Archives) の代表を含む選出された協議会による。このプロジェクトは、公開パフォーマンスの録音を保存するために設けられた (“Music Preserved: Rare recordings about Live Performances”)。「音楽保存」の文書館には1,500点以上の録音があり、オンエアされたパフォーマンスや放送されないパフォーマンス、オーラル・ヒストリーのインタビュー、ビデオ記録を含んでいる。

○ 記憶施設 (Memory Institutions：スペイン)

しばしばスペインの地方当局は、図書館、文書館、博物館のサービスを合同させる。これらの施設は「記憶施設」(Memory Institutions) と呼ばれ、地方レベルで経営されている。各市に調整されたプログラムや協力のための組織がある。オンラインPULMANの国別レポート「スペイン - PULMAN - 公立図書館の情報」(Spain - PULMAN - Information on Public Libraries) によれば、各施設の組織構造は類似しており、3つの施設のすべてに勤務する人もいる。

○ キンバリー・アフリカーナ図書館 (Kimberley Africana Library：南アフリカ)

キンバリー・アフリカーナ図書館は、ソロ・プラーチェ (Sol Plaatje) 市のキンバリー公立図書館システムの一つの分館である。この図書館は、キンバリー史および北部ケープ史の研究者に歴史情報を提供している。「キンバリー市の公式サイト」(City of Kimberley: the official site) によれば、マグレガー (McGregor) 博物館やデビアース (De Beers) 文書館

とも昔からの協力関係にあり、これら3つの施設は知識と利用者サービスを共有している。

第 3 章

共同利用施設と統合施設

先に触れたとおり、カレン・ドルンザイフは3種類の共同利用施設を確認した。すなわち最小限の統合（各自のサービスを維持した共同利用施設）、選択的な統合（特定のプロジェクトまたは部門の共有）、そして完全な統合（両施設は一つの使命を共有する）である（107-108）。図書館情報学オンライン辞典（ODLIS）の著者ライツ（Reitz）は共同利用の図書館施設を、「学校、コミュニティ・カレッジ、大学などの施設と図書館との協力的な取り決めによって、双方が同じ施設および／あるいはコレクションを共有すること」と定義している。

トロント大学のディレブコとゴットリーブ（Dilevko and Gottlieb）の2004年の著作『図書館と博物館の連携の進化：先例、現状、将来の方向』は、過去の提携を説明し、将来に向けての考え方を示唆している。そして図書館と博物館には面白くて教育的な雰囲気、多様なメディアを組み合わせているとの雰囲気が必要と提言した。両者によると、歴史的文脈のなかに実物資料を展示できる。また図書館資料は共同利用施設で具体的（リアル）な文脈のなかで展示できる（187）。さまざまな共同利用施設の事例を以下に掲げる。

1 節 最小限の統合

フリーズ（Frieze）は早くも1876年に、美術館と図書館が結びついたアメリカ唯一の施設として、ボストン・アセニウムを挙げた。当時および将来の芸術家の教育を促進するために、アセニウムの中に図書館が設置された。フリーズによると、図書館も博物館も「人びとの知的文化の奨励を志している」ので、共同施設は自然な選択である（440）。ボストン・アセニウムと図書館の共同施設は、美術品のオリジナルや複製を利用者に貸出すのを容易にしたのである。

共同施設の図書館、博物館、文書館は、今や世界中に見られる。いくつかの事例を次に挙げる。

○ ケンブリッジ公立図書館・美術館（カナダ、オンタリオ州ケンブリッジ）

ケンブリッジ美術館のウェブページ「ケンブリッジ美術館ようこそ」(Welcome to Cambridge Galleries)によれば、美術館はケンブリッジ公立図書館システムの一部で、クイーンズ広場 (Queen's Square) とプレストン (Preston) に美術展示スペースを持っている。美術教育プログラムは4か所で提供されている。オルタナティブ・フィルムに関する進行中のプログラム「シネシリーズ」(Cineseries)は、トロント国際映画祭と協力して組織されている。クイーンズ広場のスペースは、現代カナダのファイバー・アート関係コレクションの拠点で、このコレクションは成長している。また現代芸術作品の年次野外展覧会、すなわち公共芸術プログラム (Public Art Program) の会場でもある。

○ 中央文書館・オタワ公立図書館テクニカル・サービス施設 (Central Archives and Ottawa Public Library Technical Services Facility：カナダ、オンタリオ州オタワ)

オタワ市は、新しい図書館テクニカル・サービス施設（現在は中心街の時代遅れの中央館にある）と市立文書館（現在は元の市役所内のスペースを賃借りしている）の共同施設のために、2千万ドルの資金援助を得た。この施設は2010年秋に開館の予定である（“News Archive | Explore | Ottawa Public Library. City receives \$20 million from province towards new archives and library technical facility”）。

○ ユダヤ人パブリック・ライブラリー・文書館（カナダ、ケベック州モンリオール）

この施設はモンリオールのコート・ドゥ・ネージュ (Côte-des-Neiges) に1914年に開館した。図書館と文書館は同じ建物に入っている。書誌・情報サービス部の責任者エディ・ポール (Eddie Paul) によれば、中央部門 (Main Library、成人部門) には15,000点の書誌的資料 (印刷物、視聴覚資料) がある。ジュディ・ウルフサール (Judy Wolfthal) によると、これらの資料は5つの言語 (英語、フランス語、ヘブライ語、イディッシュ語、ロシア語) にわたり、子ども部門 (Children's Library) では5つの言語に加えてスペイン語の資料も所蔵している。年間 (9月から6月) を通じて、中央部門は多様な言語で豊かな文化プログラムを提供し、子ども部門は各年齢層に適した英語プログラムを提供している。文書館は200年前の資料を有する。またマニユスクリプト、書簡、人工遺物、視聴覚資料、それに17,000点以上の写真を含んでいる (“Welcome to the Archives of the Jewish Public Library, Montreal”)。同館のウェブページ「ユダヤ人パブリック・ライブラリーようこそ」 (“Welcome to the Jewish Public Library”) によれば、「同館はモンリオールっ子の多様なリクリエーション、情報、教育、そして文化ニーズ」に奉仕する。また文書館の責任は、「モンリオールのユダヤ人コミュニティの社会的、経済的、文化的な業績を収集、保存し、利用できるようにする」ことにある。図書館はしばしば文書館の資料展示を主催している。また文書館の資料は他の図書館や博物館に頻繁に貸出されている。

○ オタワ公立図書館新中央館 (カナダ、オンタリオ州オタワ)

2015年に開館予定の新中央館は現在の中央館の3倍以上の規模になるだろう。エレーン・コンドス (Elaine Condos) によると、この歴史的施設は1日に1万人の入館者を迎え、オタワ市の拠点になるだろう。多目的施設にして集合の場で、人びとはコミュニティの施設や専門的資源を利用できるのと同じように、情報、特別プログラム、研修センター、最新の技術を活用できる。新中央館は、コミュニティ「ブラウジング」図書館、技術・コミュニケーション・デジタル・サービス・センター、言語・リテラシー・センター、ビジネス・キャリア・センター、系図調査センターを備えている。新中央館はオタワ市と提携する機会を増すだろう。これには市文書館を含む。新中央館内ですでに決まっている新しい一つの提携先は、ヘリテッジ・ゲートウェイ (Heritage Gateway [同市の事業で、同市の歴史への理解を高め、市民の対話の場を提供する]) である。新中央館の日々の利用者は非常に多いので、ヘリテッジ・ゲートウェイの知名度は大いに高まるであろう。

○ レジャイナ公立図書館・美術館 (カナダ、サスカチワン州レジャイナ)

レジャイナ (Regina) 公立図書館は図書とマルチメディアのコレクションに加えて、ダンロップ美術館と共同施設に入っている。ウェブサイトによれば、ダンロップ美術館はレジャイナ公立図書館を通じて資金を受け取り (“Dunlop Art Gallery: Details: Funding”)、元図書館長の名前が美術館の名称になっている (“Dunlop Art Gallery: Details: History”)。美術館のウェブページ「ダンロップ美術館：詳細：館長の展望」 (“Dunlop Art Gallery: Details: Curatorial Vision”) によると、美術館はレジャイナ公立図書館内に位置することを歓迎している。図書館の場合、「人びとは解答を求めて来館するが、美術館は展示やプログラムを通して……、来館者に問いを投げかける」。

○ 「親のための図書館」 (The Parent Resource Library : アメリカ、テキサス州ヒューストン)

「親のための図書館」はヒューストン子ども博物館内にあり、1999年春に開館した。この図書館はヒューストン公立図書館の分館として運営されている。ウェブページ「『親のための図書館』 - ヒューストン子ども博物館」 (“Parent Resource Library - The Children’s Museum of Houston”) によると、図書館の目的は「乳幼児期の問題や関心事に関して、親に完璧な資源を提供すること」にある。コレクションの主題をみると、トイレ訓練、文化的問題、しつけなどがある。さらに図書館は、親と家族を支援するコミュニティ団体の資源リストを保持している。

○ ストロング博物館 (アメリカ、ニューヨーク州ロチェスター)

ストロング (Strong) 博物館の展示品は公立図書館の図書を含んでいる。利用者は、こ

これらの図書を博物館のあちこちから選んで、博物館の出口で借り出せる。このプログラムは博物館とニューヨーク州のロチェスター・モンロー・カウンティ公立図書館中央館との提携による (Diamant-Cohen 104)。借りた図書は博物館に返却しても、ロチェスター公立図書館のどの館に返却してもよい。

2 節 選択的な統合

○ 探検センター (Exploration Center : アメリカ、メリーランド州ボルティモア)

イノック・プラット・フリー・ライブラリーは、地元の子ども博物館「港発見」(Port Discovery) と共同して、探検センターを設けた。博物館は探検センターに無料でスペースを提供し、施設の維持に責任を持つ。図書館は職員と図書館資料を提供する。探検センターは、同博物館の教育テーマを拡大し高める図書コレクションを有している。さらに博物館関係のコンピュータ・ゲームやインターネットへのアクセスも提供する。例えば生徒や学生は博物館で、地元のアフリカ系アメリカ人神経外科医ベン・カーソン (Ben Carson) について学習する。探検センターではカーソンの伝記を読み、センターのコンピュータ・ゲームで脳外科手術を「実行」できる (Diamant-Cohen 102)。

博物館と図書館は協同して家族向けのプログラムも作成している。しばしば博物館の玄関ホールでパーティや行事を催している。また図書館で行事の口火を切り、参加者とともに博物館内を移動したりする。図書館の行事に参加しているが、博物館に入館料を払っていない子どもは、これらのプログラムの参加者として博物館に入館できる。もっとも図書館員が付き添っていないとてはならない。さらに図書館職員は博物館職員の研究を助けている (Diamant-Cohen 103)。

○ インディアナポリスーマリオン・カウンティ公立図書館 (アメリカ、インディアナ州インディアナポリス)

インディアナポリスーマリオン・カウンティ公立図書館は、インディアナポリス子ども博物館と協同して、インフォゾーン (infoZone) を創り出した。図書館と博物館の資源を併せて、博物館内に図書館の分館を設置したのである。博物館内にあるインフォゾーンで、入館者は図書館資料や発見キット (Discovery Kits) を借り出せる。なお発見キットは図書館と博物館の職員が用意したマルチメディア・バッグで、教育用資料が詰まっている (Walker and Manjarrez 35)。さらに入館者はコンピュータを利用してオンライン検索ができる。

○ マーチン・ルーサー・キング・ジュニア博士図書館 (アメリカ、カリフォルニア州サンノゼ)

博物館および／あるいは文書館と図書館との協同プロジェクトの事例ではないが、マー

チン・ルーサー・キング・ジュニア博士図書館は、その独自性のために取り上げるに値する。この図書館はサンノゼ公立図書館中央館で、サンノゼ州立大学図書館との共同利用施設である。元市長スーザン・ハマー (Susan Hammer) とサンノゼ州立大学長ロバート・キャレット (Robert Caret) が、1997年に共同施設構想を打ち出した。この図書館の場合、図書館カードを得るために身分証も居住証明も必要でない。同館は大学図書館と公立図書館のコレクションを合わせて150万点以上を有する。さらにリテラシー・センター、喫茶室、音楽視聴室、公開の芸術展示スペースも備えている (“Fast Facts About the King Library - SJLibrary.org.”)。

3節 完全な統合

○ ケベック国立図書館・文書館 (BAnQ: カナダ、ケベック州モントリオール)

ケベック国立図書館・文書館は「多くの役割をもつ施設」だが、その使命は相補的な5つの主要素からなる (Bibliothèque et Archives nationales du Québec 5)。同館の出版物『ケベック国立図書館・文書館：自由なスペース』が記す5要素を以下に簡単にまとめる。

a) 文書センター

「BAnQは、公的機関に文書管理の指導、支援、助言を行う」。また「公私文書の保存の保証、容易なアクセス、利用の促進を行う」(Bibliothèque et Archives nationales du Québec 5)。9か所の地域文書館が、リムースキ、シクータイミ、ケベック・シティ、トロア・リビエール、シャープブルック、モントリオール、ガティノー、ルーイン・ノランダ、セティルに設置されている (Les Centres d'archives)。

b) 保存センター

「BAnQは、ケベックで刊行された文書遺産とケベックの外で刊行されたケベック関係文書を、この分野の最高基準に準じて収集し、永久保存する」(Bibliothèque et Archives nationales du Québec 5)。

c) 大規模パブリック・ライブラリー

「BAnQは、ケベックの文書遺産の利用を促進し、ユニバーサルな貸出コレクションを貸出す」(Bibliothèque et Archives nationales du Québec 5)。また「図書館協力を強め、利用者が親しみやすい物理的およびバーチャルな環境を備えて、そこではケベックの全住民に文化とユニバーサルな知識への開かれたアクセス、フリー・アクセスを提供する」(Bibliothèque et Archives nationales du Québec 5)。モントリオールにある中央図書館 (Grande Bibliothèque) の面積は33,000 m²で、400万点以上の文書を所蔵し、ケベック州の全住民に専門的サービスを提供している (“Édifice de la Grande Bibliothèque”)。

d) バーチャル図書館

「BAnQは、新しい技術を駆使し、さまざまな利用者に遠隔アクセスで文書資源

やサービスを提供する」(Bibliothèque et Archives nationales du Québec 5)。

e) 国際的な「文化標識」(Bibliothèque et Archives nationales du Québec 5)

「BAnQは、とりわけフランス語圏を中心に国際的な文書関係機関のネットワークに積極的に参加し、ケベックの専門技量と文化遺産を国際的に広める」(Bibliothèque et Archives nationales du Québec 5)。

○ カナダ国立図書館・文書館(カナダ、オンタリオ州オタワ)

2004年にカナダ国立図書館とカナダ文書館は統合され、カナダ国立図書館・文書館(Library and Archives Canada)になった。館長イアン・ウィルソン博士(Ian Wilson)の予想では、新しいカナダ国立図書館・文書館は各地の文化施設や文化遺産施設と密接に協力するということである。ウィルソン博士はカナダ最初の文書館長アーサー・G.ドーティ(Arthur G. Doughty)から刺激を受けたと指摘している。ドーティは、人工遺物、戦争記念品、記録資料の収集家でもあった(結局、これらの資料はカナダ戦争博物館のコレクションの土台になった)。ドーティは完全に統合された施設という構想を抱いていたが、ウィルソン博士はドーティの構想への回帰に関心を表明した。ドーティへの回帰はすでに進行中で、それはカナダ国立図書館・文書館の創立、それにカナダ戦争博物館などの施設との資料共有による。

カナダ国立図書館・文書館の文書遺産コレクション部門の副部長イングリッド・ペアレント(Ingrid Parent)は、最近の提携状況をまとめている。それによると、同館と米国国立公文書館の提携によって、1783年のパリ条約締結225周年の祝賀展を開催することになっている。この協同プロジェクトは国際展示会を含み、両機関からかけがえのない文書や実物資料を展示することになろう。さらにカナダ国立図書館・文書館は、カナダ児童文学の古典『赤毛のアン』の出版100周年を記念して、貴重な文書記録や名作の展示会を開催する。最後に、ケベック州ガティノーのカナダ文明博物館はカナダ国立図書館・文書館と提携して展示を行い、カナダ人ピアニストのグレン・グールド(Glenn Gould)の遺産をよみがえらせる。

○ ラファイエット図書館・学習センター(アメリカ、カリフォルニア州ラファイエット)

2009年に開館予定のラファイエット(Lafayette)図書館・学習センターは、グレン・シーボーク学習コンソーシアム(Glenn Seaborg Learning Consortium)の拠点になるであろう。このコンソーシアムは以下が提携するだろう。カリフォルニア・シェイクスピア劇場、シャボウ宇宙科学センター(Shabot Space and Science Center)、カリフォルニア・コモンスウェルス・クラブ[非営利、非党派の教育団体]、グリーンベルト同盟(Greenbelt Alliance[土地の保全を中心とする環境保護団体])、ジョン・F.ケネディ大学、ジョン・ミュアー(John

Muir) 保健システム、リンジー (Lindsay) 野生生物博物館、カリフォルニア・オークランド博物館、ノウランド (Knowland) 公園のオークランド動物園、カリフォルニア・セントメアリーズ・カレッジ、カリフォルニア大学政治学研究所、カリフォルニア大学ローレンス科学教育研究所 (Lawrence Hall of Science)。

ラファイエット市再開発局発行の出版物「ラファイエット図書館・学習センター：将来構想」によると、この種の協同プログラムはアメリカ公立図書館で最初ということである(2)。

○ プケ・アリキ (ニュージーランド、ニュープリマス)

プケ・アリキ知識センターのウェブページ「プケ・アリキについて」(Puke Ariki - About Puke Ariki)によれば、ニュージーランドのニュープリマス (New Plymouth) にある同センターは、図書館、博物館、観光案内所が完全に統合されている。完全な統合によって、同施設では相互に影響を与えつつ、博物館コレクションを展示できるし、知識センターでは地域の物語を伝えることができる。

第 4 章

協同への手引き

1 節 最良の実践

図書館、博物館、文書館の分野における最良の協同実践例を以下に示す。いずれも、次に挙げた理由のうち、一つ以上の理由で選ばれている。

- a) 生涯学習および／あるいはコミュニティの発展を支援している。
- b) 提供されるサービスを最適化している。
- c) すべての人がコミュニティの資源にアクセスできるようにしている。
- d) 参加館にとって、コミュニティでの利用者層を拡大している。
- e) 文化遺産資料の保存の必要性に取り組んでいる。

以下ではプログラム名に続いて、各プロジェクトの独自性に寄与している理由を説明しておいた。

○ ケベック国立図書館・文書館（カナダ、ケベック州モントリオール）

推奨理由：ケベック国立図書館・文書館のすべてのケベック人への統合的サービスは独創的で、同州民への最適化されたサービスについて、新しい水準の始まりを示している。同館の資源は、ケベック州へのサービスを最適化し、文化遺産資料を保存している。そして歴史上はじめて、デジタル・ポータルを経由してこれらの資料へのユニバーサル・アクセスを提供している [24頁参照]。

○ ブルックリン探検（アメリカ、ニューヨーク州ブルックリン）

推奨理由：このウェブサイトは生涯学習を支援している。ブルックリン探検は独創的で、多くの文化を賞賛し、すべてのサイト訪問者に歴史的資源を利用できるようにしている [26頁参照]。

○ バーピー博物館 (アメリカ、イリノイ州ロックフォード)

推奨理由：バーピー博物館の協同は、小規模な地域提携に関する最良の側面を示している。参加機関は、ジェーンの発見と展示というまたとない生涯学習の機会を活用した。そして提供するサービスの最適化、利用者層の拡大を行い、コミュニティ全体を純然たる科学的発見の興奮に引き込んだ [12頁参照]。

○ 探検センター (アメリカ、メリーランド州ボルティモア)

推奨理由：この協同利用施設は、イノック・プラット・フリー・ライブラリーと博物館「港発見」との共有であるが、双方の提携に役立っている選択的統合施設の一例である。図書館も博物館も互いが協同によって、提供するサービスを最適化している。また新しい利用者を隣接施設にもたやすことで互いの利用者層を拡大している [34頁参照]。

○ 地球実地旅行 (アメリカ、ノースカロライナ州アッシュボロ)

推奨理由：このプログラムは生涯学習を支援している。また利用者がリアルタイムで研究者と交わることができ、対話式という独創的な特徴も有する [26頁参照]。

○ マディソン公立図書館 (アメリカ、ウィスコンシン州マディソン)

推奨理由：このプロジェクトは生涯学習を支援している。それは新規利用者へのアクセスを可能にすること、およびコミュニティにあって依然としてサービスが届いていない住民に手を伸ばすことによる [13頁参照]。

○ Cornucopia (MLA, 博物館・図書館・文書館国家評議会：イギリス)

推奨理由：このイギリスの博物館、美術館、文書館、図書館の6,000以上のコレクションのオンライン・データベースは、参加機関のサービスを最適化し、それらのコレクションへのユニバーサル・アクセスを可能にしている [22頁参照]。

○ 音楽保存 (イギリス、ロンドン)

推奨理由：このイニシアティブは、文化的意義のある作品へのユニバーサル・アクセスを可能にし、文化遺産資料の保存の必要性を訴えている [28頁参照]。

2 節 成功する協同：開始から終了まで

良い提携と成功する協同には事前の検討と準備が必要である。バーとボルトン (Bahr and Bolton) は積極的な協同を確実にする10のステップを、論文「経験の共有：大学図書館、公立図書館とコミュニティの提携」で示している。本節では、成功する協同のための開始から終了までの段階を、同論文を参考にしつつ概説する。

第1段階：事前計画

提携の事前段階では以下を行う。

- a) 提携がすべての提携機関に価値あることを明確にするために、ニーズについてのアセスメントを徹底する。
- b) 各提携機関が提携する理由について、すべての提携機関が賛同することを確実にする。
- c) 各提携機関のために提携のゴールを確立する。また各提携機関が得る利益、およびサービスされるコミュニティが得る利益を確定する。
- d) 予算を準備し、資金や補助金を獲得する。
- e) すべての提携機関に求められる責任のレベルについて指針を作成する。すべての提携機関がこれらの指針を承認すべきである。
- f) すべての提携機関が、誠実にして積極的、そして開かれたコミュニケーションに責任を持つことを確実にする。
- g) 提携機関すべてが親密になる。

第2段階：計画段階

この段階で、提携館は下記の日標の一部あるいは全部を仕上げることで、提携の基礎を据える。

- a) すべての提携機関から適任の代表者を確保する。職員の交替の可能性と交替が提携の活力に与える影響に留意する。
- b) のちの発行に向けて、提携過程の記録責任者を各機関から出すことを確実にする。
- c) すべての提携館が提携の働き方について同じ考えを持つことを確実にする。仕事の分担に関する方針文書、および提携の工程表を作成する。
- d) 同僚仲間、経営幹部、他の関係者に提携を広く知らせる。プロジェクトの公開以前に、専門的な支援を獲得しておく。すべての提携機関の職員に、提携に参加するよう、また提携に力添えをするように呼びかける。スペルマンとケリー (Spelman and Kelly) は2004年の論文「明るい光のなかで：若者の生涯学習を支援するための図書館間の提携を明確にする」で、「共有された展望と共通のゴール、それも正式の立案過程と、合同の方針と手続きの採択が伴うことが、情報サービス間で進行中の意味ある協同を支えるのに欠かせない」と指摘している (12)。
- e) 仕事の分担を確立する。

第3段階：実施

協同が進行しているとき、提携機関は以下のような指針にしたがうべきである。

- a) 状況に応じて、実施の直前に協同を十分に広報する。それには、報道発表、ウェブ

ブサイトでの宣伝、FacebookやFlickrといったソーシャル・ネットワーキングのツールの活用、それに昼食会の利用などがある。

- b) 定期的に会議を開く。それは開かれたコミュニケーションを確実にするため、各提携機関の進捗度を知らせるため、それに問題に対処するためである。
- c) 全提携機関が協同プロジェクトの遂行に十分な時間をあてていることを確認する。
- d) 共同プロジェクトの参加館、住民、提携館の職員、それに他の専門家の力添えを獲得すべく呼びかける。
- e) 進行中の協同について、その変更や調整は開かれたものにする。

第4段階：評価

協同の修了後まもなく、あるいは適当な節目（例えば開始1年後）に、協同の成功度を評価する。次の点を検討しなくてはならない。

- a) 全提携機関の参加
- b) 関わったコミュニティへの影響
- c) 協同開始時のゴール
- d) 実施期間中に生じた協同の変化や修正
- e) 測定できる結果（調査、報告、統計）

第5段階：経験の共有

経験を専門誌やコミュニティのニュースレターに発表する。そうすれば他の人がその経験を学習できる。すべての視点（図書館、博物館、その他）が覆われていることを確認する。ソーシャル・ネットワーキングのウェブサイトやウェブ2.0のツールといった新しい手段を利用して、協力プロジェクトを他の専門家や住民に広く伝える。サービスの宣伝にこうしたツールを活用している図書館や博物館の団体や協同プロジェクトは、いたって少ない。ヨーロッパ図書館（ヨーロッパ国立図書館長会議（CENL, Conference of European National Librarians）の無料サービス）と、「ブルックリンの心」プロジェクトだけが、発行の際に特定のFacebookページを用意している。もっとも本書で説明した多くの提携機関は、独自にFacebookページを持っている。例えばパーピー自然史博物館、トロント公立図書館、オタワ公立図書館である。これは同業者に成功したプロジェクトを知らせる大きな機会である。失敗した協同も刊行するとよい——他の人がそうした失敗から学ぶことができる。

3 節 協同による電子資源の創造

3.1 特別な検討事項

南部オレゴン・デジタル文書館のウェブページ「説明書」(Grant Narratives [IMLSに

補助金を申請したときのプロジェクトの説明))は、デジタル・コレクションを創造するときにしたがうべき一般的な段階を概説している。イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校の図書館のウェブサイトでも、トレバー・ジョーンズ (Trevor Jones) 作の「図書館、博物館、文書館のためのデジタル・プロジェクト入門」を掲載している。本節ではこうした例を合体させて一つの文書にする。そのことで、デジタルでの提携一般に関する特別な検討事項をまとめるが、とりわけ計画前、計画作成、デザインの段階に焦点をあてる。

第1段階：計画前

トレバー・ジョーンズは「図書館、博物館、文書館のためのデジタル・プロジェクト入門」で、どのようなプロジェクトでも着手の前に検討すべき、電子資源に関するごく少数の重要点を以下のように指摘している。

技術がデジタル・プログラムを動かすのではない。まずゴールを設定しなくてはならない。そののちにプロジェクトの目標にかなった適切な技術を選択すべきである。デジタル・プロジェクトの開始前に、一連の質問をたずねておくのが最良である。デジタル化で何を獲得できるのか。図書、展示、パンフレット、発表、ビデオで同じ成果が得られるのではないか。そのプロジェクトは機関のゴールに合致しているか。……試験的なデジタル化プロジェクトは御しやすいコレクションで始めるべきである。

さらに計画前の検討には以下が加わる。

- a) すでに協同して電子資源を創造している機関を見つける。そうした機関に相談を依頼したり、あるいは現行のプロジェクトについて意見を伺ったりする。
- b) 提携予定機関の文化について多少なりともなじみのある運営チームを作る。
- c) 時間と資源が許すなら、文献調査を行って類似のプロジェクトを探す。
- d) 外部のウェブデザイナーを雇うか否かを決定する。
- e) プロジェクトに入れる資料 (objects) が著作権保護下にあるか否かを決定する。

第2段階：計画作成およびデザインの段階

- a) 電子資源のための資料を選ぶ。
- b) データをスキャン、入力し、目録に併合する。
- c) メタデータを目録、フォーマットする。
- d) 電子資源のベータ版を作成する。
- e) 協同に関わるすべての提携機関とベータ版を編集する。
- f) すべての提携機関に2回目のベータ版を渡し、最終訂正をする。
- g) 職員に電子資源の使い方を訓練をする。

3.2 協同の利益とリスク

図書館、文書館、博物館の協同プロジェクトには数多くの利益とリスクがあることが、本報告書の準備中に明らかになってきた。

協同の多くの利益のなかに、「全体は部分の合計よりも大きくなる」(Diamant-Cohen and Sherman 102)がある。たしかに共有資源はすべての提携機関にとってコスト削減になる。ビショフ (Bishoff) は2004年の論文「避けられない協同」で、さらに共有資源は、「より良いコレクション、より多くの利用者」をもたらすと指摘している (34)。加えてギブソン (Gibson) によれば、「一緒に仕事をする、各機関から資料を集めて一つのすばらしいコレクションにでき」(62)、その結果すべてのコレクションへのアクセスが向上する。ときには共有資源のおかげで、提供機関が単独では困難であるような新しいプログラムやサービスが実施できたりする。関わった職員も互いに学び合い、職員の向上につながる (Diamant-Cohen and Sherman 102)。このようにしてすべての提携機関が、「専門的な伝統やすべての専門技量を活用」できる (Bishoff “Collaboration” 34)。そして、各専門職すべてが最良の実践を開発することになる。

また協同プロジェクトは、さまざまな方法で認識を高めることで利益を獲得できる。強力な広報をすればするほど、そのプロジェクトはいっそう大きなコミュニティに影響を与え、すべての提携機関への注目度も高まる (Diamant-Cohen and Sherman 102)。さらに「いっそう専門的な展示技術を駆使した斬新な展示や展覧会」(Gibson 63)は、より多くの入館者や新しい入館者を引きつける。それに協同はすべての提携機関に新たな利用者をもたらす (Diamant-Cohen and Sherman 102)。そのうえスーザン・ヒルドレス (Susan Hildreth) が2006年の論文「自由な自主選択学習のための提携」で述べているように、協同は「[欠かせない学習：原文] 資源への一般の注目とアクセス」を増大させる。協同は、図書館、博物館、文書館の各提携機関に、各機関にたいする一般の認識を向上させる機会となる。そうした機関はいずれも、エリート主義で閉鎖的、そして旧弊と考えられてきたのである (Gibson 58)。それに提携によって、コミュニティといっそう密接に結びつく機会、また機関同士が密接に結びつく機会を獲得できる (Gibson 63)。

最後に、協同プロジェクトは、「人びとがさまざまな学習方式を選択」できるので、すべての利用者に有益である (Hildreth)。サラ・マクニコール (Sarah McNicol) は、公共、大学、学校図書館を扱う論文で、共同利用施設の図書館は「異なる世代間の相互作用を促進し、関係を向上させるという大きな可能性」を持つという (524)。このことは、公立図書館、文書館、博物館の協同にも当然あてはまるだろう。アラン・バンディとラリー・エイミー (Alan Bundy and Larry Amey) も共同利用 (公立、大学、学校) 図書館に関する論文で、この種の協同についてこれまで主張されたことのない利益を指摘している。すなわち「共同利用図書館を始める施設や個人にとっての政治的、経歴的なプロフィール」の将来性である (502)。同じように、図書館、文書館、博物館の提携の一翼を担うということも

革新的な構想で、提携機関と職員に賞賛をもたらす可能性がある。

協同プログラムに伴うリスクについては、ウォーカーとマンファレス (Walker and Manjarrez) が4種類のリスクを確認している。一つは能力リスクで、「提携機関が仕事上の合意事項を実行できないという見通し」である (47)。これは財政的、経営的、技術的な困難、あるいは他の理由のためかもしれない。次に戦略リスクは、プロジェクトが計画通りの結果にならないという可能性に関連する (48)。コミットメント・リスクは、理由はともかく、必ずしもすべての提携機関がプロジェクトに全面的には関わらない可能性を意味する (48)。最後は適合リスクで、各提携機関の「強み (assets)、弱み (liabilities) が……適合していない」という危険性をいう (48)。

ウォーカーとマンファレスはさらにリスクの3つの要素を識別している。程度の差はともかく、どの協同プロジェクトにも出現し、各提携機関の感じ方が協同プロジェクトの強さに影響する。3つの要素とは、革新性、複雑性、および機関の相互依存性である (51)。他の研究で明らかにされている特定のリスクには、提携機関の相違から生じるリスクがある。これは図書館、博物館、文書館が異なる組織文化を持ち、「共通言語」に欠けることによる (Bishoff “Collaboration” 35)。例えば各機関のメタデータ基準が異なるかもしれない (Bishoff “Collaboration” 35)。また諸々の手続きが異なることもあるだろう (Gibson 58)。それに共通の作業原則を確立するうえでの問題、例えば優先事項の設定やコミュニケーションの指針の作成についての問題がある (Gibson 63)。

またギブソン (Gibson) は、ある提携機関が資源不足 (時間、資金、空間など) の影響で、仕事を完成できないとのリスクにも言及している (63)。またある提携機関 (大規模な機関の場合が多い) が提携関係を支配することもあろう (57)。他にもリスクとしては、抵抗的態度、各提携館の役割についての知識不足、組織としての目的の欠如などがある。

3.3 リスク管理の戦略

ウォーカーとマンファレスは、提携機関が協同プロジェクトについて明確なゴールと目標を持つよう助言している (52)。それにプロジェクトの割当ての明示も勧めている (54)。さらに「実行可能な仕事の計画表」が必要である (52)。最後に、提携機関に向けて、「プロジェクトの職員間の時宜をえたコミュニケーション」(53) を確保すること、そしてプロジェクトの点検と決定過程には上級レベルの職員を含めるよう助言した (55)。

結 論

図書館、博物館、文書館の協力プロジェクトにはたしかに利益とリスクが存在する。しかしながら、「すべての証拠は資源を出し合って蓄積することや技量の共有が……ソーシャル・イクスクルージョンの促進、特別なニーズの充足、到達するのが難しいグループの生活への接触を助けることを示している」(Spelman and Kelly 23)。デイビッド・カー(David Carr)は、「そうした可能性を補足し表現するとき、私たちは将来像を持つことになる」(38)と書いている。私たちはすべて、知識と文化遺産の保存に共通の関心を抱いている。いまや、形態は問わず、多くの情報がインターネット上にオンラインで利用できる。もはや情報をみつけることは、特定の機関を訪問することではない。むしろ情報をみつけることは、情報自体の経験——学習過程——に関わることである。図書館、文書館、博物館はこれらの課題に応えなくてはならない。それは既述のように、物理的な境界を無視すること、情報を住民に提供する新しい方法を見つけること、文化遺産情報の保存とデジタル化に協同すること、それに新しい共同利用施設を追求することによる。

執筆者紹介

アレクサンドラ・ヤロウ (Alexandra Yarrow) はオタワ公立図書館のリデュー分館 (Rideau Branch) の図書館員である。ヤロウはケベック図書館協会 (Association des Bibliothécaires du Québec/Quebec Library Association: ABQLA)、オタワ地域図書館協会 (Library Association of the National Capital Region/l'Association des Bibliothèques de la région de la capitale nationale: LANCR/ABRCN) の理事会の理事である。またカナダ図書館協会の年間児童図書賞 (Book of the Year for Children Award) の審査委員会委員で、カナダ図書館協会モンリオール元支部長であった。電子メールは以下のとおりである。Alexandra.Yarrow@BiblioOttawaLibrary.ca

バーバラ・クラブ (Barbara Clubb) はカナダオンタリオ州オタワのオタワ公立図書館長である。IFLAの大都市図書館分科会常任委員会の委員で、IFLA公立図書館分科会常任委員会の元委員長であった。また元カナダ図書館協会会長である。電子メールは以下のとおりである。Barbara.Clubb@BiblioOttawaLibrary.ca

ジェニファー・リン・ドレイパー (Jennifer-Lynn Draper) は図書館員にして独立した研究者で、現在はカナダオンタリオ州オシャワ (Oshawa) に住んでいる。

協力者への謝辞

本報告書の作成にあたり、下記の方々からかけがえのない助力を得た。

Rita Barsun, Walden University Library, Minneapolis, Minnesota, US
Chris Batt, Museums, Libraries and Archives Council (MLA) , London, UK
David Bradbury, Archives and Guildhall Art Gallery, London, UK
David Bullock, City of Ottawa, Ontario, CA
Dr. Alan Bundy, University of Australia, AU
Joan Cavanagh, Ottawa Public Library, Ottawa, Ontario, CA
Barbara Clubb, Ottawa Public Library, Ottawa, Ontario, CA
Betsy Diament-Cohen, Enoch Pratt Free Library, Baltimore, Maryland, US
Elaine Condos, Ottawa Public Library, Ottawa, Ontario, CA
Klaus-Peter Boettger, Stadtbucherei Mulheim an der Ruhr, DE
Roy Clare, Museums, Libraries and Archives Council (MLA) , London, UK
Nancy Digiacomo, Biblioteca Publica Municipal de Avellaneda, Argentina, AR
Jennifer-Lynn Draper, Oshawa, Ontario, CA
Daniel Dubeau, Bibliothèque du Québec, Montreal, Quebec, CA
Kokkie Duminy, Kimberley Africana Library, Kimberley, ZA
Barbara Gubbin, Jacksonville Public Library, Jacksonville, Florida, US
Ninette Gyorody, Georgina Pioneer Village, Keswick, Ontario, CA
Britt Marie Haggstrom, Akademikerhuset, Nacka, SE
Ruth Hedegaard, Vendsyssel Historiske Museum, Hjørring, DK
Bob Henderson, Markham Public Libraries, Markham, Ontario, CA
Dr. Stephan Inglis, Canadian Museum of Civilization, Gatineau, Quebec, CA
Liz Kerr, Kawartha Pine Ridge District School Board, Peterborough, Ontario, CA
Julie McKelvney, Montreal, Quebec, CA
Tone Moseid, Library and Museum Authority, Oslo, NO

Ingrid Parent, Library and Archives Canada, Ottawa, Ontario, CA
Gerald Patout, Williams Research Center, New Orleans, Louisiana, US
Eddie Paul, Jewish Public Library, Montreal, Quebec, CA
Gloria Perez-Salmerson, Cap del Servei de Cooperacion Biblioteccaria, Barcelona, ES
David Potts, Museums, Libraries and Archives Council (MLA) , London, UK
Dr. Victor Rabinovitch, Canadian Museum of Civilization, Gatineau, Quebec, CA
Bruce Ralston, Auckland War Memorial Museum, Auckland, NZ
David Ross, Libraries and Archives Council (MLA) , London, UK
Hélène Rossel, Bibliothèque et Archives nationales du Québec, Montreal, Quebec, CA
Kerstin Rydbeck, Uppsala University, Uppsala, SE
Dina Sherman, Brooklyn Children's Museum, Brooklyn, New York, US
Anne Spelman, State Library of Queensland, Brisbane, AU
Ian Stringer, Barnsley Central Library, Barnsley, UK
Shawn Whatley, Project Manager, Goethe-Institut, Toronto, Ontario, CA
Johanna Wellheiser, Toronto Public Library, Ontario, CA
Dr. Ian Wilson, Library and Archives Canada, Ottawa, Ontario, CA
Maria Witt, Information Science Consultant, FR
Judy Wolfthal, Jewish Public Library, Montreal, Quebec, CA
Alexandra Yarrow, Ottawa Public Library, Ottawa, ON, CA

さらに以下の機関からも助力を得られ感謝したい。

Canadian Museum of Civilization, Gatineau, Quebec, CA
Library and Archives Canada, Ottawa, Ontario, CA
Ottawa Public Library, Ottawa, Ontario, CA

參考資料

- “AAM Press Release: American Association of Museums Publishes Museums and Community Toolkit.” *American Association of Museums*. 7 Feb. 2003. 8 May 2008
<http://www.aam-us.org/pressreleases.cfm?mode=list&id=44>.
- “ABM-centrum: Mission statement.” *Coordinating Office for Archives, Libraries and Museums in Sweden*.” *ABM-centrum*. 1 May 2004. 19 May 2008
<http://abm-centrum.se/Eng/PDF/englishstatement20041012.pdf>.
- “About the Festival-The Peter Gzowski Festival of Stories.” *The Learning Centre for Georgina*. 8 May 2008
<http://www.festivalofstories.ca/about.htm>.
- “About the Southern Oregon Digital Archives.” *Southern Oregon University Library*. 2006. 22 May 2008
<http://soda.sou.edu/about.html>.
- “About Us: The Children’s Museum of Houston.” *Children’s Museum of Houston*. 2008. 19 May 2008
<http://www.cmhouston.org/about/>.
- “ALA | Sister Libraries.” *American Library Association*. 2007. 9 June 2008
<http://www.ala.org/template.cfm?section=sisterlibraries&template=/cfapps/sisterlibraries/alstories.cfm>.
- “American Indians of the Pacific Northwest.” *University of Washington Libraries*. 2008. 8 May 2008
<http://content.lib.washington.edu/aipnw/>.
- “Antiquities and Crafts Join Reading Bandwagon.” *Library + Information Update* 6.10 (Oct. 2007): 11.
- “Art Partnerships Work.” *Library + Information Update* 4.5 (May 2005): 9.
- Bahr, Alice Harrison, and Nancy Bolton. “Share the Experience: Academic Library, Public Library

- and Community Partnerships.” *The Southeastern Librarian* 50.2 (Summer 2002): 26-32.
- Barsun, Rita. “The Well-Read Librarian: Library Partnerships.” *Indiana Libraries* 23.1 (2004): 49-52.
- Batt, Chris. “Digital Futures.” *NAPLE Forum- 4th Conference Digital Resources in Public Libraries*. Madrid. 26 Sept. 2007. 10 May 2008
http://www.naple.info/chris_batt.pdf.
- “BCPL History and Genealogy InfoCenter Local History Page.” *Baltimore County Public Library*. 5 June 2008. 13 June 2008
<http://www.bcpl.info/info/history/local.html>.
- Bell, Carmine J., and Kathleen de la Peña McCook. “A Passion for Connection: Community Colleges Fulfill the Promise of Cultural Institutions.” *Reference and User Services Quarterly* 43.3 (Spring 2004): 206-212.
- Bennett, Nuala A, et al. “Illinois Digital Cultural Heritage Community - Collaborative Interactions among Libraries, Museums and Elementary Schools.” *D-Lib Magazine* 8.1 (Jan. 2002). *D-Lib*. 13 May 2008
<http://www.dlib.org/dlib/january02/bennett/01bennett.html>.
- Bibliothèque et Archives nationales du Québec. *Bibliothèque et Archives nationales du Québec: un espace de liberté*. Montréal: BAnQ, 2006.
- Bibliothèque et Archives nationales du Québec. *Bibliothèque et Archives nationales du Québec: a space of freedom*. Montréal: BAnQ, 2006.
- Bishoff, Liz. “The Collaboration Imperative.” *Library Journal*. 129.1 (15 Jan. 2004): 34-35. *Reed Business Information*. 13 May 2008
<http://www.libraryjournal.com/article/CA371048>.
- Bishoff, Liz. “Interoperability and Standards in a Museum/Library Collaborative: The Colorado Digitization Project.” *First Monday* 5.6 (5 June 2000). *First Monday*. 13 May 2008
http://www.firstmonday.dk/issues/issue5_6/bishoff/index.html. (これは以下のURLのまちがईと思われる)
http://www.firstmonday.org/issues/issue5_6/bishoff/index.html
- Boge, Patricia. “Community Partnerships at the LaCrosse (Wisc)Public Library.” *Public Libraries* 43.3 (May/June 2004): 151-152.
- “Books Connect: Creating Partnerships for Libraries, Museums and the Arts.” *Chartered Institute of Library and Information Professionals*. 2002. June 2008
<http://www.artsandlibraries.org.uk/bc/index.html>.
- Bradbury, David. “RE: Public Libraries, Archives and Museums: Your Help Is Requested.” Email to Barbara Clubb. 1 May 2008.

- “Brooklyn Expedition.” *Brooklyn Expedition*. 2002. 13 May 2008
http://www.brooklynexpedition.org/about_this_sitefr.htm.
- Bundy, Alan. “Places of Connections: New Public and Academic Library Buildings in Australia and New Zealand.” *Australasian Public Libraries and Information Services (Aplis)* 17.1 (Mar. 2004): 32-47.
- Bundy, Alan, and Larry Amey. “Libraries like No Others: Evaluating the Performance and Progress of Joint Use Libraries.” *Library Trends* 54.4 (Spring 2006): 501-518.
- “Burpee Museum Jane Collaborative Project.” *Burpee Museum of Natural History*. 8 June 2008
<http://www.burpee.org/janecollaborative.htm>. (このURLはなくなっている。以下が博物館のトップページである)
<http://www.burpee.org/janecollaborative.htm>
- “Burpee Museum of Natural History | Facebook.” *Facebook*. 2008. 8 June 2008
<http://www.facebook.com/group.php?gid=2249725548&ref=mf>.
- Caidi, Nadia. “National Information Infrastructures in Central and Eastern Europe: Perspectives from the Library Community.” *Information Society Journal* 20.1 (Jan. 2004): 25-38.
- “CALIMERA.” *The Calimera Project*. 18 Oct. 2006. 22 May 2008
<http://www.calimera.org>.
- Campbell, Deborah. “PictureAustralia - Participating in a Collaborative Digital Project.” 68th IFLA Council and General Conference. Scottish Exhibition and Conference Centre, Glasgow. 20 Aug. 2002. 13 May 2008
<http://www.ifla.org/IV/ifla68/papers/154-123e.pdf>.
- Cantú, Amy, and Beth Andersen. “It's Not Easy Being Green, But It Sure Is Fun: Sustainability Programming at the Ann Arbor District Library.” *Public Libraries* 42.4 (July/Aug. 2003): 240-4.
- Carr, David. “In the Contexts of the Possible: Libraries and Museums as Incendiary Cultural Institutions.” *RBM: A Journal of Rare Books, Manuscripts and Cultural Heritage* 1.2 (2000): 117-35.
- Cathro, Warwick S. “Keynote Paper: Visions for Fundamental Change in Libraries and Librarianship for Asia Pacific.” *Library Review* 50.7/8 (2001): 334-342.
- “Centre de Conservation.” *Bibliothèque et Archives nationales du Québec*. 25 Mar. 2008. 9 June 2008.
http://www.banq.qc.ca/portal/dt/a_propos_banq/renseignements_generaux/centre_conservation/rg_centre_conservation.jsp
- “Les Centres d'archives.” *Bibliothèque et Archives nationales du Québec*. 29 May 2008. 9 June 2008

- http://www.banq.qc.ca/portal/dt/a_propos_banq/reenseignements_generaux/centres_archives/centres_archives.jsp.
- “Charting the Landscape, Mapping New Paths: Museums, Libraries, and K-12 Learning.” *Institute of Museum and Library Services*. Aug. 2004. 21 May 2008
http://www.imls.gov/pdf/Charting_the_Landscape.pdf.
- “The Children’s Museum of Indiannopolis.” *Museum Overview*. 10 June 2008
<http://www.childrensmuseum.org/themuseum/overview.htm>.
- “City of Kimberley: The Official Site.” *Solplaatje.org.za* 19 May 2008
<http://www.solplaatje.org.za/residents/libraries/Africana/index.html>.
- Clement, Gail. “Florida’s Libraries Help to Save the Everglades.” *Florida Libraries* 47.1 (Spring 2004): 14-16.
- “Collage.” *London Metropolitan Archives*. 10 June 2008
<http://collage.cityoflondon.gov.uk/collage/app?service=page/About>.
- “Colloquium on Learning in Museums VII.” Ontario Museum Association. Holiday Inn Peterborough-Waterfront. Peterborough. 20 Oct. 2004. 13 June 2008
<http://www.museumsontario.com>.
- Condos, Elaine. “RE: IFLA: OPL sections.” E-mail to Alexandra Yarrow. 5 June 2008.
- “CORDIS: Telematics for Libraries: Report on the Situation of Libraries, Museums and Archives. Denmark.” *Danish National Focal Point. Biblioteksstyrelsen*. Apr. 1998. 20 May 2008
<http://www.cordis.lu/libraries/en/nfp/denmark.html>.
- “Creating Partnerships.” *Lincolnshire County Council*. 10 June 2008
<http://www.artsandlibraries.org.uk/creatingpartnerships/index.html>.
- Davidson, Robert I. “Providing Genealogy Research Services in Public Libraries.” *Public Libraries* 43.3 (May/June 2004): 142-144.
- Dawes, Colin, and David Erskine. “The Roald Dahl Children's Gallery: Project Management at Buckinghamshire County Museum.” *The Manual of Museum Exhibitions*. Eds. Gail Dexter Lord and Barry Lord. Lanham: Altimira Press, 2002. 450-454.
- Diamant-Cohen, Betsy, and Dina Sherman. “Hand in Hand: Museums and Libraries Working Together.” *Public Libraries* 42.2 (Mar./Apr. 2003): 102-105.
- Dickson, Virginia. “Collaboration Plus! The Development of an Information Literacy and Communication Program.” *The Australian Library Journal* 53.2 (2004): 153-160.
- Dilevko, Juris, and Lisa Gottlieb. *The Evolution of Library and Museum Partnerships: Historical Antecedents, Contemporary Manifestations, and Future Directions*. Westport: Libraries Unlimited, 2004.
- Dilevko, Juris, and Lisa Gottlieb. “Resurrecting a Neglected Idea: the Reintroduction of

- Library-Museum Hybrids.” *The Library Quarterly* 73.2 (Apr. 2003): 160-198.
- “Directions for Library and Archives Canada.” *Library and Archives Canada*. June 2004. 21 May 2008
<http://www.collectionscanada.ca/obj/012012/f2/01-e.pdf>.
- Dornseif, K. A. “Joint Use Libraries: Balancing Autonomy and Cooperation.” *Resource Sharing & Information Networks* 15.1/2 (2001): 103-116.
- “Dunlop Art Gallery: Details: Curatorial Vision.” *Dunlop Art Gallery*. 2000. 10 June 2008
<http://www.dunlopartgallery.org/details/curator.html>. (このURLはなくなっている。以下のURLと思われる)
<http://www.dunlopartgallery.org/about/index.html>
- “Dunlop Art Gallery: Details: Funding.” *Dunlop Art Gallery*. 2000. 10 June 2008
<http://www.dunlopartgallery.org/details/funding.html>. (このURLはなくなっている。以下のURLと思われる)
<http://www.dunlopartgallery.org/about/funding.html>
- “Dunlop Art Gallery: Details: History.” *Dunlop Art Gallery*. 2000. 10 June 2008
<http://www.dunlopartgallery.org/details/history.html>. (このURLはなくなっている。以下のURLと思われる)
<http://www.dunlopartgallery.org/about/history.html>
- “Durham Public Library – Museum Passes.” *Durham Public Library*. 2008. 8 May 2008
<http://www.durhampubliclibrary.org/museums.html>.
- “Édifice de la Grande Bibliothèque.” *Bibliothèque et Archives nationales du Québec*. 25 Mar. 2008. 9 June 2008
http://www.banq.qc.ca/portal/dt/a_propos_banq/renseignements_generaux/grande_bibliotheque/rg_grande_bibli.jsp.
- Elturk, Ghada. “Report: Palestinian Libraries - Little Pieces of Heaven in Hell.” *Progressive Librarian* 21 (Winter 2003): 42.
- “The European Library | Facebook.” *Facebook*. 2008. 10 June 2008
<http://www.facebook.com/pages/The-European-Library/11772356430>.
- “Everglades Digital Library.” *Florida International University Libraries*. 2008. 9 May 2008
<http://everglades.fiu.edu/>.
- “Exhibit Museum to Host Family Event.” *The University Record*. 23 Apr. 2001. 12 May 2008
http://www.ur.umich.edu/0001/Apr23_01/17.htm.
- “Fast Facts About the King Library - SJLibrary.org.” *SJLibrary.org*. 13 Dec. 2007. 10 June 2008
<http://sjlibrary.org/about/locations/king/fastfacts.htm>.
- Feldstein, Sarah. “Expanding the Capacity of the Public Library: Partnerships with Community

- Based Environmental Groups.” *Electronic Green Journal*. Dec. 1996. 20 May 2008
<http://egj.lib.uidaho.edu/index.php/egj/issue/view/151>.
- “Field Trip Earth.” *North Carolina Zoological Society*. 2008. 8 May 2008
<http://www.fieldtripearth.org/>.
- “Field Trip Earth: Bringing Wildlife Researchers Online and into the Classroom.” *Institute of Museum and Library Services*. Aug. 2004. 8 May 2008
<http://www.mmischools.com/Newsletters/MmisXtra.aspx?NewsletterID=503>.
- “Framework for the Future: MLA Action Plan for Public Libraries – “Towards 2013.” *Museums, Libraries and Archives Council*. London: Museums, Libraries and Archives Council, 2008.
- Frieze, H. S. “Art Museums and Their Connection with Public Libraries.” *Public Libraries in the United States of America: Part One: 1876 Report*. Illinois: University of Illinois Graduate School of Library Science Monograph Series #4, 1876. 433-444.
- “Frontdesk.” *Library Journal* 133.4 (1 Mar. 2008): 13.
- Gendron, Celine. “Competency Profile - Information Resources Management Specialists in Archives, Libraries and Records Management: A Comprehensive Cross-Sectoral Competency Analysis.” 12 June 2008
http://www.culturalhrc.ca/linksinformation/reports/alarm_e.pdf.
- Gibson, Hannah, Anne Morris and Marigold Cleeve. “Links Between Libraries and Museums: Investigating Museum-Library Collaboration in England and the USA.” *Libri* 57.2 (June 2007): 53-64.
- “Goethe-Institut Toronto.” *Goethe-Institut*. 2008. 8 May 2008
<http://www.goethe.de/ins/ca/tor/uun/enindex.htm>.
- “Good Practice Guidelines.” *The Calimera Project*. 2005. 22 May 2008
<http://www.calimera.org/Lists/Guidelines%20PDF/Calimera%20guidelines%20full%20version%20Jan%202005-%20Compressed.pdf>.
- Goodrum, Abby A. “Visual Resource Reference: Collaboration between Digital Museums and Digital Libraries.” *D-Lib Magazine*. 9.2 (Feb. 2003). *D-Lib*. 13 June 2008
<http://www.dlib.org/dlib/february03/goodrum/02goodrum.html>.
- Green, David. “Best Practices in Networking Cultural Heritage Resources: Where to Start?” *National Initiative for a Networked Cultural Heritage (NINCH)*. 2003. 21 May 2008
<http://www.ninch.org/about/articles/98spectra.html>.
- Green, David. “Cultivate Interactive Issue 3: The National Initiative for a Networked Cultural Heritage: Intellectual Needs Shaping Technical Solutions.” *Cultivate Interactive*. Jan. 2001. 9 May 2008
<http://www.cultivate-int.org/issue3/ninch/>.

- Green, David. "Museums Collaborate in New Ventures for Digital Libraries Marketing." *Association of Research Libraries (ARL)*. 5 Aug. 2002. 21 May 2008
<http://www.arl.org/bm~doc/intro-4.pdf>.
- Griffiths, José-Marie, and Donald W. King. "InterConnections: The IMLS National Study on the Use of Libraries, Museums and the Internet -- Conclusions." *Institute of Museum and Library Services*. Feb. 2008. 8 May 2008
<http://www.interconnectionsreport.org/reports/ConclusionsFullRptB.pdf>.
- Gyorody, Ninette. "Get off the Museum Merry-Go-Round: Educational Programming with Community Partners." Colloquium on Learning in Museums VII. Holiday Inn Peterborough-Waterfront, Peterborough. 20 Oct. 2004.
- Heal, Sharon. "MLA Joins with Regional Agencies on a Single Plan." *Museums Journal* 106.2 (2006): 7.
- "Heart of Brooklyn: About Us." *Heart of Brooklyn*. 2007. 10 June 2008
<http://www.heartofbrooklyn.org/about/>.
- "Heart of Brooklyn | Facebook." *Facebook*. 12 June 2008
<http://www.facebook.com/pages/Brooklyn-NY/Heart-of-Brooklyn/8915318895?ref=ts>.
 [Business page]
- "Heart of Brooklyn | Facebook." *Facebook*. 12 June 2008
<http://www.facebook.com/profile.php?id=771825611&ref=ts>. [Profile page]
- Hedegaard, Ruth. "Benefits of Archives, Libraries and Museums Working Together." 69th IFLA General Conference and Council. International Congress Centre. Berlin. 3 Aug. 2003. 19 May 2008
<http://www.ifla.org/IV/ifla69/papers/051e-Hedegaard.pdf>.
- Henderson, Anne, and Elyse Adler. "Project Access for Adult English – Language Learners." *First Monday* 10.6 (June 2005). *First Monday*. 2 June 2008
http://firstmonday.org/issues/issue10_6/henderson/index.html.
- Hildreth, Susan. "Developing Partnerships for Free Choice Learning." *Public Libraries* 45.4 (July/Aug. 2006): 7-11.
- "Historique." *Bibliothèque et Archives nationales du Québec*. 31 Jan. 2008. 9 June 2008
http://www.banq.qc.ca/portal/dt/a_propos_banq/qui_sommes-nous/historique/qsq_historique.jsp.
- "Houston Public Library - Home." *Houston Public Library*. 2008. 20 May 2008
<http://www.houstonlibrary.org/index.html>.
- "The Huntington Museum Pass Guidelines." *City of Pasadena*. 10 June 2008
<http://www.ci.pasadena.ca.us/library/PDF/Huntington-Library.pdf>.

- “An ICT Strategy for London’s Museums, Archives and Libraries.” *London’s Museums, Archives and Libraries (LMAL)*. Sept. 2003. 11 June 2008
http://www.m25lib.ac.uk/component/option,com_docman/task,doc_download/gid,33/Itemid,178.
- “IMLS – About Us.” *Institute of Museum and Library Services*. 19 May 2008
<http://www.imls.gov/about/about.shtm>.
- “The Institute of Museum and Library Services.” *Library Mosaics* 15.1 (Jan./Feb. 2004): 18-19.
- Johnson, Carol, P. et al. “Collaboration Generates Synergy: Saint Paul Public Library, the College of St. Catherine, and the ‘Family Place’ Program.” *Reference and User Services Quarterly* 41.1 (Fall 2001): 19-23.
- Jones, Trevor. “An Introduction to Digital Projects for Libraries, Museums and Archives.” *University Library, University of Illinois at Urbana- Champaign*. May 2001. 6 June 2008
<http://images.library.uiuc.edu/resources/introduction.htm>.
- Kalfatovic, Martin, R. “Creating a Winning Online Exhibition: A Guide for Libraries, Archives and Museums.” Chicago: American Library Association, 2002.
- “King Township’s Digital Database.” *Access* 12.4 (Summer 2006): 10. *OLA* 2006. 6 June 2008
http://www.accessola2.com/images/infocentral/access12_4.pdf.
- Kirk, Wendy, et al. “Family Learning Services in UK Public Libraries: An Investigation of Current Provision and Ongoing Development.” *New Library World* 105. 1200/1201 (2004): 176-183.
- Knelman, Martin. “Will MAP Point Way to More Museum Visitors?” *The Star.com*. 27 June 2007. 21 May 2008
<http://www.thestar.com/article/229769>.
- Kniffel, Leonard. “Reclaiming Family History in El Paso.” *American Libraries* 35.4 (Apr. 2004): 34.
- “Kraft Great Kids Museum Passes.” *Chicago Public Library*. 2008. 20 May 2008
http://www.chipublib.org/eventsprog/programs/kids/grkids_museumpass.php.
- “Kreisstadt Unna - Kulturbetriebe Unna -Zentrum für Information und Bildung.” *Kreisstadt Unna*. 2005. 22 May 2008
http://www.unna.de/cms/front_content.php?idcat=28.
- “Lafayette Library and Learning Center: Glenn Seaboard Learning Consortium.” *Lafayette Library and Learning Center Foundation*. 10 June 2008.
<http://www.lafayettelib.com/consortiumN.html>. (このURLはなくなっている。コンソーシアムのホームページは以下である)
<http://www.lafayettelib.com/consortium.html>

- “Lafayette Library and Learning Center: Our Vision for the Future.” *City of Lafayette Redevelopment Agency and Lafayette Community Foundation*. Sept. 2006. 12 May 2008
<http://www.lafayettelib.com/pdf/New%20Site/art%20%20wine%20flyer.%202006.revised.pdf>. (このURLはなくなっている。コンソーシアムのホームページは以下である)
<http://www.lafayettelib.com/consortium.html>
- “Leslie’s toolkit.” *American Library Association (ALA) Special Presidential Committee*. 4 May 2001. 13 May 2008
<http://library.austincc.edu/presentations/CommunityPartnerships/>.
- “Libraries to Develop a Learning Community: A Strategic Plan for Action. Draft for Consultation.”
Resource: The Council for Museums, Archives and Libraries. 2001. 8 May 2008
<http://www.nemlac.co.uk/nemlac/resources/using-museums-archives-libraries-to-develop-a-learning-community.pdf>.
- “Light Home-Light Culture.” *Light* 19 May 2008
<http://www.light-culture.net/>.
- Lindman, Åke E:son. “The European Library Web Exhibition – Kungl. Biblioteket. National Library of SwedenFasaden.” Biblioteket ligger i Humlegården i centrala Stockholm. 2008. 19 May 2008
<http://www.theeuropeanlibrary.org/exhibition/countries/sweden.html>. (すでにこのウェブ展示は終了しておりホームページには記載されていない。展示自体のホームページは以下である)
<http://www.theeuropeanlibrary.org/exhibition/>
- Maier, Gerald. “Common Internet Portal for Libraries, Archives and Museums – BAMPortal.” *International Cataloguing and Bibliographic Control* 32.3 (July/Sept. 2003): 44-46.
- Martin, Robert S. “Cooperation and Change: Archives, Libraries and Museums in the United States.” *World Library and Information Congress: 69th IFLA General Congress and Council*. Berlin. 3 Aug 2003. 8 May 2008
<http://www.ifla.org/IV/ifla69/papers/066e-Martin.pdf>.
- McCook, Kathleen de la Pena, and Maria A. Jones. “Cultural Heritage Institutions and Community Building.” *Reference and User Services Quarterly* 41.4 (Summer 2002): 326-329.
- McNicol, Sarah. “What Makes a Joint Use Library a Community Library?” *Library Trends* 54.4 (Spring 2006): 519-534.
- Melrose, Elizabeth Anne. “The North Yorkshire Unnetie Digitisation Project: From an Idea to an Opportunity.” *New Library World* 105. 1200 (2004):196-202.
- Michelsen, Tove. “NOKS – Forsiden.” 2005. 22 May 2008
<http://www.noks.dk>.

- “Mission.” *Bibliothèque et Archives nationales du Québec*. 2 Mar. 2006. 9 June 2008
http://www.banq.qc.ca/portal/dt/a_propos_banq/qui_sommes-nous/mission/qs_n_mission.jsp.
- “MLA.” *The Museums, Libraries and Archives Council (MLA)*. 2008. 19 May 2008
<http://www.mla.gov.uk/home>.
- “MLA South West. Museums, Archives and Libraries Across England to Celebrate Our Many Cultures.” *MLA South West*. 22 Sept. 2003. 8 May 2008
<http://www.mlasouthwest.org.uk/index.php?SID=606&YEAR=2003&ID=28#SID@@@606>.
- “MOAC.” *Museums and the Online Archive of California* 2008. 9 May 2008
<http://www.bampfa.berkeley.edu/moac/>.
- Morton, Norman. “Anatomy of a Community Relations Success.” *American Libraries* 32.2 (Feb. 2001): 40-42.
- “Museum Passes.” *Fairfield Public Library, Fairfield Connecticut*. 2008. 8 May 2008
<http://www.fairfieldpubliclibrary.org/museum.htm>.
- “Museum Passes.” *Pembroke Public Library*. 2008. 8 May 2008
<http://www.pembrokepubliclibrary.org/passess.php>.
- “Museum Passes: Check Out the Past @ Your Library.” *Kingston Frontenac Public Library*. 2007. 9 May 2008
<http://www.kfpl.ca/programsEvents/museumPasses>.
- “Museum Passes-Detroit Adventure Pass.” Metro Detroit Public Library. *eChamber Connect, llc*. 2007. 8 May 2008
<http://www.detroitadventurepass.org/>
- “Museum Pass Information.” *SAILS Museum Pass Info*. 8 May 2008
<http://www.sailsinc.org/museum.htm>.
- “Museum Pass Program.” *Boston Public Library*. 2003. 10 June 2008
http://www.bpl.org/museum/general/circulation_passes.htm.
- “Museums and the Online Archive of California (MOAC): a Report to IMLS.” *BAM/PFA*. 2003. 22 May 2008
<http://www.bampfa.berkeley.edu/moac/classic/reportintro.html>.
- “Museums, Archives and Libraries to Develop a Learning Community: A Strategic Plan for Action.” *Resource: The Council for Museums, Archives, and Libraries*. London: The Council for Museums, Archives and Libraries, 2001.
- “The Museums, Libraries and Archives Council. Cornucopia – Discovering UK Collections.” *Cornucopia*. 21 May 2008.
<http://www.cornucopia.org.uk>.

- “Music Preserved: Rare Recordings about Live Performances.” *Music Preserved*. 2005. 5 June 2008
<http://www.musicpreserved.org.uk/>.
- “News Archive | Explore | Ottawa Public Library. City Receives \$20 Million from Province Towards New Archives and Library Technical Facility.” *Ottawa Public Library- Public service Announcement*. 15 Apr. 2008. 12 May 2008
http://www.bibliottawalibrary.ca/archive/news_releases/2008/04_15_08_e.html
- O'Connor, Jim, and Richard Allen. “Establishing Partnerships – a Strategic Process.” *How to Engage Your Community in Partnerships in Education: A Canadian Resource Guide for Educators and Employers*. Hamilton-Wentworth: Industry-Education Council, 1996. Chapter 5.
- “Ottawa Public Library | Facebook.” *Facebook*. 12 June 2008
<http://www.facebook.com/pages/Ottawa-Public-Library-Bibliotheque-publique-dOttawa/10665762191?ref=ts>.
- “Ottawa Public Library.” *Library Partnerships – Explore – Ottawa Public Library*. 8 May 2008
http://www.bibliottawalibrary.ca/explore/about/partners_e.html.
- “Ottawa Public Library.” *Main – Locations & Hours – Ottawa Public Library*. 19 May 2008
http://www.bibliottawalibrary.ca/explore/branches/ma_e.cfm.
- Owen, T., and R. Johnson. “Libraries, Museums and Archives Collaboration in the United Kingdom and Europe.” *Art Libraries Journal* 24.4 (1999): 10-13.
- “PALMM: Publication of Archival, Library and Museum Materials.” *State University Systems of Florida*. 2008. 10 June 2008
<http://palmm.fcla.edu>.
- Parent, Ingrid. “Library/Archival/Museum Collaboration.” E-mail to Barbara Clubb. 8 May 2008.
- “Parent Resource Library - The Children's Museum of Houston.” *Children's Museum of Houston*. 2008. 10 June 2008
<http://www.cmhouston.org/library/>.
- Patout, Gerald F. “The Obituary Index Project: A Collaborative Gateway to Local History.” *The Southeastern Librarian* 52.1 (Spring 2004): 36-39.
- Paul, Eddie. “RE : RE : RE: Re: Fwd: FW: IFLA report - ask Judy about JPL?” E-mail to Alexandra Yarrow. 9 June 2008.
- Peruchena, Ana Maria. “Libraries in Argentina: An Overview.” *IFLA Journal* 30.2 (2004):108-128.
- Pierce, Burek Jennifer. “A Groundbreaking Consortium Model.” *American Libraries* 35.6 (June/July 2004): 87.
- Potts, David. “RE: IFLA report: Public Libraries, Archives and Museums: Trends in Cooperation

- and Collaboration”. E-mail to Alexandra Yarrow. 21 May 2008.
- “Puke Ariki - About Puke Ariki.” *Puke Ariki*. 2003. 10 June 2008
<http://www.pukeariki.com/en/about/>.
- Rabinovitch, Victor. Interview with Jennifer-Lynn Draper. n.d. [2005?]
- Reitz, Joan M. “Joint use.” *ODLIS — Online Dictionary for Library and Information Science*. 19 Nov. 2007. 22 May 2008
http://lu.com/odlis/odlis_J.cfm#.
- Rinehart, Richard. “MOAC - A Report on Integrating Museum and Archive Access in the Online Archive of California.” *D-Lib Magazine*. Jan. 2003. 4 Aug. 2005
<http://www.dlib.org/dlib/january03/rinehart/01rinehart.html>.
- Rodger, Eleanor Jo, Corinne Jorgensen and George D’ Elia. “Partnerships and Collaboration among Public Libraries, Public Broadcast Media, and Museums: Current Context and Future Potential.” *Library Quarterly* 75.1 (Jan. 2005): 42-66.
- Rodney, Mae L. “Building Community Partnerships: ‘The One Book, One Community’ Experience.” *College and Research Libraries News* 65.3 (Mar. 2004): 130+.
- “RoskildeLIGHT Description.” *Light-Roskilde Municipality*. 19 May 2008
<http://www.light-culture.net/light/content/download/508/2184/file/RoskildeLIGHTdescription.pdf>.
- “Russia - PULMAN - Information on Public Libraries.” *PULMANweb*. 26 Sept. 2002. 9 June 2008
<http://www.pulmanweb.org/countries/country%20profiles/infoRussia.htm>.
- Shelkrot, Elliot L. “Vision and Visibility: Community Partnerships and the Urban Library.” *Public Libraries*. 43.3 (May/June 2004): 150-151.
- “Southern Oregon Digital Archives.” *Southern Oregon University Library*. 2003. 8 June 2008
http://soda.sou.edu/project/Grant_Narrative.html.
- “Spain - PULMAN - Information on Public Libraries.” *PULMANweb*. 6 Mar. 2003. 9 June 2008
<http://www.pulmanweb.org/countries/country%20profiles/infoSpain.htm>
- Spelman, Anne, and Paula Kelly. “In Visible Light: Illuminating Partnerships Across Libraries to Facilitate Lifelong Learning for Young People.” *Australasian Public Libraries and Information Services (Aplis)* 17.1 (Mar. 2004): 4-26.
- Storey, Tom. “Libraries: Their Role and Relationship to Other Cultural Institutions.” Interview with Bob Martin, Director of the Institute for Museum and Library Services. *OCLC Newsletter* Apr. 2003. 4 Aug. 2005
<http://www.oclc.org/news/publications/newsletters/oclc/2003/260/oclcnewsletter260.pdf>.
- “Sun Life Financial Museum and Arts Pass.” *Toronto Public Library*. 14 May 2008. 22 May 2008
http://www.torontopubliclibrary.ca/spe_ser_museum_arts_pass.jsp.

- Sykes, J. "Find it in London: A Unique Co-operative Venture across Libraries, Archives and Museums." *Art Libraries Journal* 28.1 (2003): 19-23.
- "Toronto Public Library | Facebook." *Facebook*. 12 June 2008
<http://www.facebook.com/pages/Toronto-Public-Library/36564941320?ref=s>.
- Trant, Jennifer. "The Web of Collaboration: New technologies, New Opportunities for the Visual Arts in a Digital Age." *Visual Arts in a Digital Age*. Smith College Symposium. Northampton. 22 Sept. 2001. 22 May 2008
<http://www.amico.org/docs/papers/2001/amico.smith.0109.text.pdf>.
- "Urban Libraries Council - Strengthening the Public Library as an Essential Part of Urban Life." *Urban Libraries Council*. 8 June 2008
<http://www.urbanlibraries.org/research/database.html>.
- van Nuys, Carol. "The Norwegian Digital Library – Easy Access to Information and Knowledge Sources." *World Library and Information Congress: 71st IFLA General Conference and Council*. Oslo. 17 Aug. 2005. 8 May 2008
<http://www.ifla.org/IV/ifla71/papers/120e-vanNuys.pdf>.
- van Sluys, Shawn. "Cultural Collaboration: Art and History Interfacing with Communities." *Canadian Museums Association*. Dec. 2003. 4 Aug. 2005
<http://www.museums.ca/cma1/publications/articles/shawnvansluysweb.doc>. (このURLは存在しない。参考までに以下がトップページである)
<http://www.museums.ca/>
- Vicars-Harris, Oliver. "COLLAGE: City of London Library and Art Gallery Electronic." *New Library World*. 100.2 (1999): 60-64.
- Walker, Christopher, and Carlos A. Manjarrez. "Partnerships for Free Choice Learning: Public Libraries, Museums and Public Broadcasters Working Together." *The Urban Institute and Urban Libraries Council*. 2004. 22 May 2008
http://www.urban.org/UploadedPDF/410661_partnerships_for_free_choice_learning.pdf.
- "Welcome to the Archives of the Jewish Public Library, Montreal." *Jewish Public Library Archives*. 9 June 2008
<http://www.jewishpubliclibrary.org/archives/ainroduction.html>.
- "Welcome to Cambridge Galleries." *Cambridge Galleries*. 13 May 2008
<http://www.cambridgegalleries.ca/cambridge.taf?section=1>.
- "Welcome to the Heart of Brooklyn. A Cultural Partnership." *Heart of Brooklyn*. 2007. 9 June 2008
<http://www.heartofbrooklyn.org/>.
- "Welcome to the Jewish Public Library." *Jewish Public Library*. 9 June 2008
<http://www.jewishpubliclibrary.org/>.

- “Welcome to the King Township Public Library: Heritage.” *King Township Public Library*. 2006. 8 May 2008
<http://www.kinglibrary.on.ca/heritage.cfm?pageID=heritage&subPageID=timeless>. (これは以下のURLのまちがいと思われる)
<http://www.king-library.on.ca/heritage.cfm?pageID=heritage&subPageID=timeless>
- “The Welland Public Library Local History Site.” *Welland Public Library*. 2008. 8 May 2008
<http://www.welland.library.on.ca/digital/Chist.htm>.
- Whitley, Shawn. “AW: IFLA Report on Library/Museum/Archive Collaboration.” E-mail to Alexandra J. Yarrow. 30 May 2008.
- Whittaker, D. “Interoperability in the MAL Sector.” *Library + Information Update* 2.4 (Apr. 2003): 44-45.
- Whitwell, Stuart. “A Natural Cultural Partnership: Libraries, Museums, and Government.” *American Libraries* 28.4 (Apr.1997): 35-36.
- Wilson, Ian E. “The Future Isn’t What it Used to Be.” Making Information and Knowledge a Public Resource. The Crossing Boundaries National Conference. Library and Archives Canada. Ottawa. 8 May 2003.
- Wilson, Ian E. Interview with Jennifer-Lynn Draper. n.d. [2005?]
- “Windsor Public Library.” *Windsor Public Library*. 21 May 2008. 22 May 2008
<http://www.windsorpubliclibrary.com/>.
- Wolfthal, Judy. “RE: Draft of JPL Section for IFLA Report.” E-mail to Alexandra Yarrow. 10 June 2008.
- “World Digital Library.” *World Digital Library Project*. 5 May 2008. 19 May 2008
<http://www.worlddigitallibrary.org/project/english/>.

訳者あとがき

垣口は2008年からIFLAの公立図書館分科会の委員になり、2008年8月10日から14日にかけてカナダのケベック市で開かれたIFLA第74回年次大会 (World Library and Information Congress: 74th IFLA General Conference and Council) に参加した。その委員会の席上、(英語版とフランス語版が同時に刊行された) 本報告書の日本語訳を打診され、垣口と川崎が本報告書を邦訳することにした。

IFLA専門報告第108号『公立図書館・文書館・博物館：協同と協力の動向』は、基本的に事例集といえる。IFLA大会がケベックで開かれるのを意識してか、相対的にはカナダの事例が多いと思われる。しかし全体とみると、やはりアメリカでの事例が多く、ヨーロッパが続き、アジアをはじめとする地域の事例はない。

アメリカの場合、1996年に「博物館・図書館サービス振興機関」(IMLS, Institute of Museum and Library Services) が設置されたが、この連邦の機関が図書館と博物館の結びつきを奨励し、強めている。また生涯学習の領域でも、ジョン・フォーク (John Falk and Lynn Dierking, *Lessons Without Limit: How Free-Choice Learning is Transforming Education*, Walnut Creek, California, Atla Mira Press, 2002) が枠組みを設定した「自由な自主選択学習」(free-choice learning) という考えがでている。この枠組みに図書館、博物館、文書館、それに公共放送テレビ(ラジオ)などが組み込まれる。

こうしたことも背景に、図書館、博物館、文書館などは文化機関や文化遺産機関としてまとめられ、提携、協同、協力、統合など、さまざまな形態でサービスを模索し、実践するようになってきている。そうした実践を本報告書は数多く示しており、参考になるだろう。また本書末尾の参考資料はかなり網羅的で、今後の研究に資することを願っている。

2008年11月29日

垣口弥生子・川崎良孝



京都大学図書館情報学研究会と刊行物

京都大学図書館情報学研究会は1999年に発足した研究会で、さまざまな人からの援助を得つつ、良質の図書館情報学の図書、とりわけ学術的著作の刊行を目指しています。これまでに日本図書館協会の販売協力によって、以下の図書を刊行できました。今後も工夫しつつ、年に数点の刊行を目指しています。

- ・川崎良孝編著（長尾真監修）『大学生と『情報の活用』：情報探索入門；京都大学全学共通科目講義録』（1999年3月）絶版
- ・川崎良孝解説・訳『ボストン市立図書館は、いかにして生まれたか：原典で読む公立図書館成立期の思想と実践』（1999年10月）
- ・川崎良孝・高鉄裕樹著『図書館・インターネット・知的自由：アメリカ公立図書館の思想と実践』（2000年4月）絶版
- ・ウェイン・A.ウィーガンド編著『『図書館の権利宣言』を論じる』（川崎良孝・薬師院はるみ訳，2000年9月）
- ・バーバラ・M.ジョーンズ著『図書館・アクセス・知的自由：公立図書館と大学図書館の方針作成』（川崎良孝・村上加代子訳，2000年11月）絶版
- ・河井弘志『ドイツ図書館学の遺産：古典の世界』（2001年4月）絶版
- ・川崎良孝編著（長尾真監修）『大学生と『情報の活用』：情報探索入門；京都大学全学共通科目講義録（増補版）』（2001年4月）
- ・呉建中・塩見昇・川崎良孝著 菅待子訳 川崎良孝編『21世紀の図書館を考える：中国・日本・アメリカ』（2001年10月）絶版
- ・川崎良孝編著『図書館・図書館研究を考える：知的自由・歴史・アメリカ』（2001年12月）絶版
- ・スザンヌ・ヒルデンブランド著『図書館史に女性を書きこむ』（田口瑛子訳，2002年6月）絶版
- ・川崎良孝解説・訳『公教育と図書館の結びつき：ホールズ・マンと学校区図書館』

(2002年7月)絶版

- ・ヘンリー・ライヒマン著『学校図書館の検閲と選択: アメリカにおける事例と解決方法 (第3版) (川崎佳代子・川崎良孝訳, 2002年9月)
- ・川崎良孝著『図書館裁判を考える: アメリカ公立図書館の基本的性格』(2002年11月)
- ・イーヴリン・ゲラー著『アメリカ公立図書館で禁じられた図書: 1876 - 1939年、文化変容の研究』(川崎良孝・吉田右子訳, 2003年10月)
- ・トニ・セイメック著『図書館の目的をめぐる路線論争 - アメリカ図書館界における知的自由と社会的責任: 1967 - 1974年』(川崎良孝・坂上未希訳, 2003年10月)
- ・ジョアン・E.パセット著『アメリカ西部の女性図書館員: 文化の十字軍、1900 - 1917年』(宮崎真紀子・田口瑛子訳, 2004年3月)
- ・川崎良孝編著 吉田右子・高銚裕樹・金智鉉・繆国琴・郭過渡・沈麗雲著 『技量の継続的向上を求めて: 図書館員の研修に関する国際動向』(KSPシリーズ1, 2004年5月)
- ・河井弘志編訳『司書の教養』(KSPシリーズ2, 2004年8月) 絶版
- ・ウェイン・A.ウィーガンド著『手に負えない改革者: メルヴィル・デュエイの生涯』(川崎良孝・村上加代子訳, 2004年9月)
- ・マイケル・F.ウインター著『技量の統制と文化: 司書職の社会学的理解に向けて』(川崎良孝訳, 2005年1月)
- ・メアリー・リー・バンディ、フレデリック・J.ステイロー編著『アメリカ図書館界と積極的活動主義: 1962 - 1973年』(川崎良孝・森田千幸・村上加代子訳, 2005年7月)
- ・アビゲイル・A.ヴァンスリック著『すべての人に無料の図書館: カーネギー図書館とアメリカ文化 1890 - 1920年』(川崎良孝・吉田右子・佐橋恭子訳, 2005年9月) 絶版
- ・高銚裕樹著『デジタル情報資源の検索』(KSPシリーズ3, 2005年9月) 絶版
- ・エリザベス・ロング著『ブッククラブ: アメリカ女性と読書』(田口瑛子訳, 2006年3月)
- ・川崎良孝著『アメリカ公立図書館・人種隔離・アメリカ図書館協会: 理念と現実との確執』(2006年3月)
- ・バーバラ・T.メイツ著『高齢者への図書館サービスガイド: 55歳以上図書館利用者へのプログラム作成とサービス』(KSPシリーズ4, 高島涼子・川崎良孝・金智鉉訳, 2006年11月) 絶版
- ・王漢棟・王萍・魏家雨編著『新しい調査研究サービス: 上海図書館・科学技術研究所の経験』(KSPシリーズ5, 櫻井待子・徐瑛・川崎良孝訳, 2006年10月)
- ・塩見昇・川崎良孝編著『知る自由の保障と図書館』(2006年12月) 絶版
- ・高銚裕樹著『デジタル情報資源の検索 (増訂版)』(KSPシリーズ6, 2007年3月)

- ・ ウェイン・A.ウィーガンド著『司書職の出現と政治：アメリカ図書館協会 1876－1917年』（川崎良孝・吉田右子・村上加代子訳, 2007年3月）
- ・ 呉建中著『21世紀の図書館：世界のなかの中国の図書館』（川崎良孝・櫻井待子・村上加代子訳, 2007年7月）
- ・ ダグラス・レイバー著『司書職と正当性：公立図書館調査（Public Library Inquiry）のイデオロギー』（川崎良孝訳, 2007年9月）
- ・ ジョン・E.ブッシュマン著『民主的な公共圏としての図書館：新公共哲学の時代に司書職を位置づけ持続させる』（川崎良孝訳, 2007年11月）
- ・ キャスリーン・デ・ラ・ペーニャ・マックック著『アメリカ公立図書館職入門』（田口瑛子・川崎良孝・村上加代子訳, 2008年3月）
- ・ ジョン・E.ブッシュマン、グロリア・J.レッキー編著『場としての図書館：歴史、コミュニティ、文化』（川崎良孝・久野和子・村上加代子訳, 2008年9月）
- ・ 河井弘志『ドイツの公共図書館思想史』（2008年10月）

今回の『公立図書館・文書館・博物館：協同と協力の動向』は以下のチームがサポートしました。

総 括：櫻井待子（京都大学大学院法学研究科図書室）

編集校正：櫻井待子 川崎良孝

レイアウト：濱口加奈美

ロゴ作成：服部芳明

研究会代表 川崎 良孝

※本報告書『公立図書館・文書館・博物館：協同と協力の動向』は非売品です。本報告書をご希望の方は、切手400円分を同封して、下記にご連絡ください。

606-8501 京都市左京区吉田本町京都大学大学院教育学研究科

図書館情報学研究室 川崎良孝

訳者紹介

垣口 弥生子 (かきぐち やえこ) Yaeko Kakiguchi

元・大阪府立中之島図書館ビジネス支援室長

2006年 大阪大谷大学・桃山学院大学非常勤講師

2008年 IFLA 公立図書館分科会常任委員会委員

主要業績：『中之島百年：大阪府立図書館のあゆみ』（共著，大阪府立中之島図書館百周年記念事業実行委員会発行，2004）ほか

川崎 良孝 (かわさき よしたか) Yoshitaka Kawasaki

1998年 京都大学大学院教育学研究科教授

主要業績：『手に負えない改革者：メルヴィル・デューイの生涯』（翻訳，京都大学図書館情報学研究科発行，日本図書館協会発売，2004）；川崎良孝「I 総論」『図書館ハンドブック 第6版』（日本図書館協会，2005，p. 2-40）；『アメリカ公立図書館・人種隔離・アメリカ図書館協会』（京都大学図書館情報学研究科発行，日本図書館協会発売，2006）；『図書館の原則（第7版）』（翻訳，日本図書館協会，2007）ほか

『公立図書館・文書館・博物館：協同と協力の動向』

Public Libraries, Archives and Museums: Trends in Collaboration and Cooperation

2008年12月1日発行

非売品

著 著 アレクサンドラ・ヤロウ、バーバラ・クラブ、ジェニファー・リン・ドレイパー

訳 者 垣口弥生子・川崎良孝

発 行 京都大学図書館情報学研究科

〒606-8501 京都市左京区吉田本町京都大学大学院教育学研究科

図書館情報学研究室内

電話 075-753-3077

表紙デザイン 濱口加奈美 組版 株式会社松籟社

印刷・製本 モリモト印刷株式会社

